

Syllabus 2024

授業計画

2024 年度 シラバス

作業療法学科
Occupational Therapist



科目名	文章読解法		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員(◎印は科目責任者)	◎ 近藤 正臣					
授業概要	①説明文や論説(評論)文等を用いて、書かれている内容を正確に読み取る練習を「演習(自習)→解説(答え合わせ)」の形式で展開する。 ②文検3級の受験テキストの何篇かを用いて、語彙力や表現力も含めた総合的な文章力の向上を図る練習を行う。					
到達目標	①説明文や論説(評論)文等の内容を正しく理解できる文章読解力を身につける。 ②語彙力や表現力も含めた文章全般の力を向上させ、文検3級に合格できる程度の文章力を身につける。					
教科書	テキストA. 新聞で力をつける「コラムと論説」演習ノート第5集 【京都書房】 テキストB. 論読 評論文 問題ノート付 【浜島書店】、 作成プリント					
参考書	『文章検 3級対応 基礎から学べる 文章カステップ』【漢検】、 他					
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他		計	
	80 点	10 点	10 点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：事前配布・講義中配布されたプリントの対応、授業計画の各回内容の準備・対応。 復習：講義内容と教科書・関係プリントとの関連性を重視した確認。					
授業計画						講師名
第1回	① オリエンテーション⇒「開講説明、実施方法・評価方法」等に関して。 ◇ ② 「辰・辰年に関して」の説明・問題及び「日本語チェック」の問題を解く。 ◇ ③ 「3行3段構成書き」による「自己紹介文」を書く。 ◇ ④ 参考資料「目的別 文の種類」・「読解に関して」の参照・確認する。 ◇					近藤
第2回	① 「文章読解力・文章表現力」に対する自分の思いをそれぞれ100字程度にまとめる ◇ ⇒グループ討議後提出 ② テキストA P. 1～5の「入門編」を参照・確認する。 ③ テキストA P. 6～15の「コラム編」の演習と解説					近藤
第3回	テキストA P. 16～27の「論説編」の演習と解説 テキストA P. 28～31の「入試問題編」の演習と解説					近藤
第4回	テキストB 情報の1・2・3の演習と解説					近藤
第5回	テキストB 芸術の4・5・6の演習と解説					近藤
第6回	テキストB 科学の7・8・9の演習と解説					近藤
第7回	テキストB 科学の10、言語の11・12の演習と解説					近藤
第8回	テキストB 言語の13・14、文化の15の演習と解説					近藤
第9回	テキストB 文化の16・17・18の演習と解説					近藤
第10回	小テストの実施(読解問題)、 テキストB 社会の19の演習と解説					近藤
第11回	テキストB 社会の20・21・22の演習と解説					近藤
第12回	テキストB 身体の23・24・25の演習と解説					近藤
第13回	テキストB 思想の26・27・28の演習と解説					近藤
第14回	文検3級「まとめ問題の演習と解説					近藤
第15回	全体のまとめに関して ア. 試験について イ. 「活躍・発展を祈念して」等					近藤
備考	○「成績評価方法」欄中の「その他」は、平常点(授業中の態度・提出物状況等)を指します。 ○「授業計画」欄中の◇は、プリントの使用を表します。 ○「一般教養」のための基礎知識的な資料・問題等のプリントを適宜配布します。 ○授業の進捗状況によって、授業計画(内容)を変更する場合があります。					

科目名	物理学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 笠利 彦弥					
授業概要	作業療法に必要となる「物理学」の基礎を、「力のつり合い」、「力のモーメント」、「重心」、「加えた力と生じる加速度の関係」等の視点から学習する					
到達目標	「人体の動作」、「各部位に作用する力」、「関節の動きとテコの原理」、「重心とその安定性」、「力とその作用」がどのように物理学で説明できるのかを理解する					
教科書	PT・OT ゼロからの物理学【羊土社】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	レポート	その他		計	
	50 点	50 点			100 点	
予習・復習のポイント	講義の中で力学の法則とその使い方を理解し、自宅学習で課題に取り組み定着を図る。分からない箇所は積極的に質問し解決していく。					
授業計画						講師名
第 1 回	物理量とその表し方：有効数字、大きい数・小さい数、基本単位と組立単位、ベクトル量とスカラー量 力のつり合いと運動の法則：力の三要素、力の合成・分解					笠利
第 2 回	力のつり合い、三角比 ニュートンの法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則					笠利
第 3 回	力のつり合い、運動方程式 まとめと演習					笠利
第 4 回	さまざまな力：張力、垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力					笠利
第 5 回	いろいろな運動：等速直線運動、等加速度運動					笠利
第 6 回	いろいろな運動：等加速度運動演習					笠利
第 7 回	いろいろな運動：落体の運動					笠利
第 8 回	物体の重心と回転運動：力のモーメント、剛体の運動、剛体のつり合い					笠利
第 9 回	重心の求め方、重心と物体の安定性					笠利
第 10 回	力のモーメントと3つのてこ					笠利
第 11 回	仕事と仕事率					笠利
第 12 回	運動エネルギー、重力による位置エネルギー、ばねによる位置エネルギー					笠利
第 13 回	力学的エネルギー保存の法則					笠利
第 14 回	運動量と力積					笠利
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	生命科学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保匡良					
授業概要	リハビリテーションに関連性の強い解剖学・生理学の知識のベースを固める。 また、それらの知識を臨床的思考につなげることが出来る。					
到達目標	【知識・技術】解剖・生理学、疾患の基礎知識を記憶に定着させることができる 【思考力・判断力】解剖・生理学的視点から病態を理解することができる 【学びに向かう力】知識をつながっていくことで学びの面白さを感じることができる					
教科書	病気が見える「脳・神経」 病気が見える「循環器」【出版社】MEDICMEDIA					
参考書						
成績評価方法	定期試験	中間試験			計	
	80 点	20 点	点		点	
授業計画						講師名
第 1 回	上肢筋の起始と停止から作用を理解する					神保匡
第 2 回	上肢筋の起始と停止から作用を理解する					神保匡
第 3 回	血液循環と心不全を理解する					神保匡
第 4 回	冠動脈と虚血性心疾患を理解する					神保匡
第 5 回	大脳皮質を理解する					神保匡
第 6 回	錐体路と脳卒中を理解する					神保匡
第 7 回	脊髄視床路と脳卒中を理解する					神保匡
第 8 回	前半の復習①					神保匡
第 9 回	中間試験					神保匡
第 10 回	大脳基底核とパーキンソン病を理解する					神保匡
第 11 回	小脳と小脳症状を理解する					神保匡
第 12 回	血圧を理解する					神保匡
第 13 回	血圧を理解する					神保匡
第 14 回	後半の復習②					神保匡
第 15 回	まとめ					神保匡
備考						

科目名	情報科学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 橋本 規子					
授業概要	専門基礎科目及び専門科目を学んでいく上で必要な情動的な能力を身につけるため授業を行う。いろいろな情報の中から、目的に合った適切な情報の有効な活用方法を演習する。					
到達目標	専門基礎科目及び専門科目など様々な教科学習の基礎になおる情報リテラシーを習得すること。					
教科書	30 時間アカデミック Office2019 【実教出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	その他			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：シラバスに記載されている教科書の内容を確認 復習：課題作成時に確認					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション、コンピューターの基礎 1 章 Windows、2 章 Word (1) 文書の作成					橋本
第 2 回	情報モラル&セキュリティ (1) 2 章 Word (2) 表の作成					橋本
第 3 回	情報モラル&セキュリティ (2) 2 章 Word (3) 文書の編集					橋本
第 4 回	情報モラル&セキュリティ (3) 2 章 Word (4) 表現力をアップする					橋本
第 5 回	2 章 Word (5) 長文作成をサポートする					橋本
第 6 回	2 章 まとめ					橋本
第 7 回	3 章 Excel (1) データの入力・編集、表の作成					橋本
第 8 回	3 章 Excel (2) 表の印刷、いろいろな数式 (1)					橋本
第 9 回	3 章 Excel (3) いろいろな数式 (2)					橋本
第 10 回	3 章 Excel (4) グラフと図形					橋本
第 11 回	3 章 Excel (5) データベースの利用、操作の自動化					橋本
第 12 回	3 章 まとめ					橋本
第 13 回	4 章 PowerPoint (1) プレゼンテーションの作成 (1)					橋本
第 14 回	4 章 PowerPoint (2) プレゼンテーションの作成 (2)					橋本
第 15 回	まとめ					橋本
備考						

科目名	医学概論		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人間と生活		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 遠藤 整					
授業概要	衛生学・公衆衛生学を中心に医学に関わる諸問題について講義する 医療従事者としての必要な基礎的、臨床的な医学知識を学習する					
到達目標	現代における健康と予防医学の意義について考察し、医学を広く理解する 健康影響や疾病の起因について環境因子の側面から考察できる					
教科書						
参考書	必要があれば講義中に紹介する					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	医学、医療の諸問題について常に関心を持ち、社会との関連を理解する 講義までに教科書などに目を通し、分からないことがあれば必ず質問すること					
授業計画						講師名
第 1 回	医学概論（ガイダンス） 【医学における衛生学・公衆衛生学の役割について理解する】					遠藤
第 2 回	医療と医の倫理 【医の倫理に関わる関係法規と医療情報管理を学ぶ】					遠藤
第 3 回	保健統計 【健康に関わる評価方法を各種保健統計から理解する】					遠藤
第 4 回	疫学 【統計をもとに疫学的手法を理解し疾病予防と健康増進を考察する】					遠藤
第 5 回	保健行政 【母子保健、老人介護保健、精神保健を学ぶ】					遠藤
第 6 回	環境保健 【環境因子と疾患の関係について感染症や公害病などから理解する】					遠藤
第 7 回	生活習慣病 【生活環境が起因するがんやメタボリックシンドロームを理解する】					遠藤
第 8 回	生活習慣病の予防 【メタボリックシンドロームと肝疾患を理解し、その予防法について理解する】					遠藤
第 9 回	遺伝子異常と疾患 【疾病の発症を分子生物学的視点から考える】					遠藤
第 10 回	予防医学 【予防医学の特徴を知り、分子レベルから疾患の予防法を考察する】					遠藤
第 11 回	がん 【発がんのメカニズムを理解する】					遠藤
第 12 回	がん予防 【がん予防の可能性と実践について考察する】					遠藤
第 13 回	先端医療技術 【iPS 細胞に関わる遺伝子組み換え技術や生殖、再生医療など最新医学について学ぶ】					遠藤
第 14 回	根拠に基づく医学（EBM） 【医学情報を正しく理解し、医療や予防医学における根拠について考察する】					遠藤
第 15 回	まとめ					遠藤
備考	評価方法や学習方法については初回の講義に補足説明をする。 評価する際、講義態度も重要視する。					

科目名	医学英語		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人間と生活		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 長坂 明					
授業概要	医療現場で使用される英語基本用語や英語表現を学ぶ。 文法事項を復習し、医療英語ニュース、文献を学んでいく。					
到達目標	英語をコミュニケーション手段として活用できるようにし、正しい情報取得に努める。					
教科書	福祉・介護系学生のための総合英語 - A Helping Hand【南雲堂】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他		計	
	70 点	15 点	15 点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書を中心に配布プリントで補いながら医学英語をマスターする。					
授業計画						講師名
第 1 回	授業概論・医学英語の基本説明					長坂
第 2 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習①					長坂
第 3 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習②					長坂
第 4 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習③					長坂
第 5 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習④ (小テスト)					長坂
第 6 回	医学英語読解の基礎学習 運動動作の英語表現①					長坂
第 7 回	医学英語読解の基礎学習 運動動作の英語表現②					長坂
第 8 回	医学英文ニュース読解 運動動作の英語表現③					長坂
第 9 回	医学英文ニュース読解 運動動作の英語表現④					長坂
第 10 回	医学英文ニュース読解 運動動作の英語表現⑤ (小テスト)					長坂
第 11 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－①					長坂
第 12 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－②					長坂
第 13 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－③					長坂
第 14 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－④					長坂
第 15 回	総復習					長坂
備考	成績評価の <u>その他</u> については「提出物」の提出状況・授業態度をみて評価する。					

科目名	健康科学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	演習	単位	2 単位
	人間と生活		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 平野智子					
授業概要	人生 100 年時代を健康的に生活でき、目標を定めて自己実現を目指すために必要な知識・技術を養う。					
到達目標	学生自身の健康的なライフスタイルを確立することを目標とする。					
教科書	プリントを配付					
参考書	授業内にて指示					
成績評価方法	レポート				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	課題に対する情報収集力を高めると共にその情報の編集力を養う					
授業計画						講師名
第 1 回	授業オリエンテーション（評価・プレゼンテーション・実技について） 発送の転換「気づき」から「築き」へ					平野・斉藤
第 2 回	体力と運動能力構成要素 体力測定 課題 自身のライフスタイルを確認する					平野・斉藤
第 3 回	ストレッチング運動の意義や方法 ～ 立位・椅子でのストレッチング					平野・斉藤
第 4 回	肩こり・腰痛予防のためのストレッチと効果 ～ タオル体操					平野・斉藤
第 5 回	プレゼンテーションについて（グループ・テーマ等決定） マットでのストレッチング（ストレッチポール使用）					平野・斉藤
第 6 回	筋力トレーニングの意義や方法 ～ 立位、椅子での筋力トレーニング					平野・斉藤
第 7 回	体幹トレーニングの実施と効果 ～ 立位、椅子での体幹トレーニング					平野・斉藤
第 8 回	プレゼンテーション（資料の収集、構成） マットでの筋力トレーニング（ポール使用）					平野・斉藤
第 9 回	全身持久力トレーニングの意義や方法 ～ 簡単エアロビクス					平野・斉藤
第 10 回	プレゼンテーション（流れの確認） アジリティ・脳活性トレーニング					平野・斉藤
第 11 回	介護予防のための運動の意義と方法 ～ 椅子での運動（リズム体操） プレゼンテーションの資料提出					平野・斉藤
第 12 回	プレゼンテーション					平野・斉藤
第 13 回	ストレスを考える ～ 椅子ヨガ					平野・斉藤
第 14 回	運動継続のヒント ～ アイスブレイク・レクリエーションゲーム					平野・斉藤
第 15 回	まとめ					平野・斉藤
備考						

科目名	コミュニケーション論		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	社会の理解		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 長澤 里絵					
授業概要	ケアや社会福祉援助ではつねに人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。					
到達目標	1. 医療現場におけるコミュニケーション論の基本的知識を理解する。 2. ロールプレイングを通し、対人関係能力を維持・高めコミュニケーション行動を展開できる基礎的な能力を習得する。					
教科書	第2版 PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド【医学書院】					
参考書	適宜紹介する。					
成績評価方法	定期試験	その他			計	
	70 点	30 点		点	100 点	
予習・復習のポイント	事前学習：テキストの該当箇所を読み予習を行うこと。 事後学習：授業で扱う内容について復習をしておくこと。					
授業計画						講師名
第1回	イントロダクション・コミュニケーションとは ー コミュニケーションの目的と分類・医療現場におけるコミュニケーションを学ぶ重要性の理解					長澤
第2回	言語的（バーバル）コミュニケーション ー 語彙理解と文章理解					長澤
第3回	非言語（ノンバーバル）コミュニケーション（1） ー NVCの分類・アイコンタクト					長澤
第4回	非言語（ノンバーバル）コミュニケーション（2） ー 表情・近接学					長澤
第5回	コミュニケーションの基本（1） ー 「聴く」と「聞く」					長澤
第6回	コミュニケーションの基本（2） ー コミュニケーションにおける「話す」とは					長澤
第7回	コミュニケーションの基本（3） ー 相手のメッセージを受け止める					長澤
第8回	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ー 敬語・あいさつ・電話応対					長澤
第9回	臨床で役立つコミュニケーションスキル（1） ー 医療面接での対話					長澤
第10回	臨床で役立つコミュニケーションスキル（2） ー 話を引き出す・切り上げる・答えにくい質問に応じる方法					長澤
第11回	コミュニケーション実習（1） ー ロールプレイング（1）					長澤
第12回	コミュニケーション実習（2） ー ロールプレイング（2）					長澤
第13回	アサーティブコミュニケーションとは					長澤
第14回	コミュニケーション実習（3） ー ロールプレイング（3）アサーショントレーニング					長澤
第15回	まとめ					長澤
備考						

科目名	解剖学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 夏山 裕太郎					
授業概要	ヒトの体内で様々な機能を担う循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、血液系および生殖器系（含む発生）について、その正常構造を学ぶ。					
到達目標	内臓諸器官の構造や人体の発生を理解し、説明できる事を到達目標とする					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版 【医学書院】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第 3 版 【医学書院】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習の際には、授業計画を参考にして、教科書の当該部分を読んでおくこと。復習が重要である。授業でのノートや教科書に目を通し、その日に学んだことの理解度を確認すること。					
授業計画						講師名
第 1 回	循環器系 I 心臓、動脈、毛細血管網および静脈について解説する。					夏山
第 2 回	循環器系 II 心臓、動脈、毛細血管網、そして静脈を経て心臓に戻る血管系の走行と支配経路を解説する。					夏山
第 3 回	循環器系 III リンパ系組織の構造と役割について解説する。					夏山
第 4 回	血液系 血液の成分、造血および止血・凝固について解説する。					夏山
第 5 回	消化器系 I 上部消化器の構造と食物の消化・吸収機能について解説する。					夏山
第 6 回	消化器系 II 下部消化器と消化腺の構造と食物の消化・吸収について解説する。					夏山
第 7 回	消化器系 III 下部消化器と消化腺の構造と食物の排泄機能について解説する。					夏山
第 8 回	呼吸器系 気道の構造と機能について解説する。					夏山
第 9 回	泌尿器系 泌尿器の構造と各部位の尿産生に関わる機能について解説する。					夏山
第 10 回	生殖器系 男性・女性生殖器の構造と生殖機能について解説する。					夏山
第 11 回	内分泌系 I 内分泌器（視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体）の構造と位置を示し、分泌されるホルモンの種類を解説する。					夏山
第 12 回	内分泌系 II 内分泌器（胸腺、膵臓、副腎、性腺）の構造と位置を示し、分泌されるホルモンの種類を解説する。					夏山
第 13 回	人体発生 I 受精、卵割、着床時に起こる様々な現象について解説する。					夏山
第 14 回	人体発生 II 胎生期の組織発生について、構造を中心に解説する。					夏山
第 15 回	まとめ					夏山
備考						

科目名	解剖学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	4 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松山 永久					
授業概要	パワーポイントや動画を用いて、中枢神経系および末梢神経系の構造と機能を理解し、模型等で三次元的な理解を行う。					
到達目標	神経系の基本的な構造・機能の理解。中枢神経系の脳・脊髄の構造および末梢神経系の脳神経と脊髄神経の走行と支配筋および機能を理解					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 【医学書院】					
参考書	プロメテウス 頭頸部・神経解剖 【医学書院】					
成績評価方法	中間試験	定期試験			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：各講義予定の項目内容を教科書や参考書等で一読する 復習：配布資料や教科書で講義内容を確認しノートにまとめる					
授業計画						講師名
第 1 回	神経系総論Ⅰ 神経の区分・構成について解説をする。					松山
第 2 回	神経系総論Ⅱ 脳脊髄膜と脳室系の解説をする					松山
第 3 回	神経系総論Ⅲ 神経の発生について解説する。					松山
第 4 回	中枢神経系Ⅰ（脊髄） 脊髄の外形構造や機能について解説をする。					松山
第 5 回	中枢神経系Ⅱ（脊髄） 脊髄の各部位の断面構造や機能についての解説をする。					松山
第 6 回	中枢神経系Ⅲ（脳幹） 脳幹の位置と機能について解説をする。					松山
第 7 回	中枢神経系Ⅳ（脳幹） 延髄の位置と機能について解説をする。					松山
第 8 回	中枢神経系Ⅴ（脳幹） 橋の位置と機能について解説をする					松山
第 9 回	中枢神経系Ⅴ（脳幹） 中脳的位置と機能について解説をする。					松山
第 10 回	中枢神経系Ⅵ（間脳） 間脳（視床・視床下部）の位置と機能について解説をする。					松山
第 11 回	中枢神経系Ⅶ（小脳） 小脳の構造と機能について解説をする。					松山
第 12 回	中枢神経系Ⅷ（大脳半球） 大脳半球の表面の区分と大脳皮質の機能局在について解説をする。					松山
第 13 回	中枢神経系Ⅸ（大脳半球） 大脳基底核についての解説をする。					松山
第 14 回	中枢神経系Ⅹ（大脳半球） 神経路の解説をする。					松山
第 15 回	中間まとめ					松山

授業計画		講師名
第 16 回	痛覚の伝導路 上行性伝導路の視覚路についての解説をする。	松山
第 17 回	視覚・聴覚の伝導路 上行性伝導路の聴覚路についての解説をする。	松山
第 18 回	その他の伝導路 味覚、嗅覚の伝導路について解説をする。	松山
第 19 回	下行性伝導路 錐体路、錐体外路について解説をする。	松山
第 20 回	末梢神経系 脳神経Ⅰ 脳神経 12 対について部位と機能について解説をする。	松山
第 21 回	末梢神経系 脳神経Ⅱ 脳神経 12 対について部位と機能について解説をする。	松山
第 22 回	末梢神経系 脊髄神経Ⅰ 脊髄神経の概要について解説する。	松山
第 23 回	末梢神経系 脊髄神経Ⅱ 頸神経の枝の走行と支配筋と機能について解説をする。	松山
第 24 回	末梢神経系 脊髄神経Ⅲ 腕神経叢の枝の走行と支配筋と機能について解説をする。	松山
第 25 回	末梢神経系 脊髄神経Ⅳ 腕神経叢の枝の走行と支配筋と機能および麻痺について解説をする。	松山
第 26 回	末梢神経系 脊髄神経Ⅴ 胸髄および胸神経の走行と支配筋との関連および胸郭の構造を解説する。	松山
第 27 回	末梢神経系 脊髄神経Ⅵ 腰骨神経叢の枝の走行と支配筋との関連および機能について解説をする。	松山
第 28 回	末梢神経系 脊髄神経Ⅶ 仙骨神経叢の枝の走行と支配筋との関連および機能について解説をする。	松山
第 29 回	自律神経系 交感神経・副交感神経の走行と機能について解説をする。	松山
第 30 回	総合まとめ	松山
備考		

科目名	解剖学Ⅲ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	6 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	45 コマ	時間数	90 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 夏山 裕太郎					
授業概要	医学の基本である人体の構造について基本的事項を中心に学ぶ。 特に、当科目では、全身の骨・関節・筋における基本的構成と特徴について知識の修得を目指す。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体における運動器系の基本的構造について説明できる。 ・ 人体各部の骨の名称および関節の構造について説明できる。 ・ 人体各部の筋の名称およびその付随項目について説明できる。 					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 【医学書院】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版 【医学書院】					
成績評価方法	定期試験	中間試験	その他		計	
	70 点	30 点	0 点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：教科書を一読し、講義内容の概略を把握することが望ましい。 復習：講義の内容と教科書の内容を照らし合わせ、教科書を熟読することが望ましい。					
授業計画						講師名
第1回	解剖学総論1：人体を構成する細胞と組織について学習する。					夏山
第2回	解剖学総論2：人体の組織、器官、発生について学習する。					
第3回	骨学総論1：骨学の基礎について概説する。					夏山
第4回	骨学総論2：骨学の基礎について概説する。					
第5回	骨学各論1：頭蓋の骨について学習する。					夏山
第6回	骨学各論2：脊柱と胸郭について学習する。					
第7回	骨学各論3：上肢帯について学習する。					夏山
第8回	骨学各論4：自由上肢骨について学習する。					
第9回	骨学各論5：下肢帯について学習する。					夏山
第10回	骨学各論6：自由下肢骨について学習する。					
第11回	関節靭帯総論1：関節と靭帯について概説する。					夏山
第12回	関節靭帯総論2：関節と靭帯について概説する。					
第13回	関節靭帯各論1：頭蓋と脊柱の連結について学習する。					夏山
第14回	関節靭帯各論2：脊椎と胸郭の連結について学習する。					
第15回	関節靭帯各論3：上肢帯の連結について学習する。					夏山
第16回	関節靭帯各論4：上肢帯の連結について学習する。					
第17回	関節靭帯各論5：自由上肢骨の連結について学習する。					夏山
第18回	関節靭帯各論6：自由上肢骨の連結について学習する。					
第19回	関節靭帯各論7：下肢帯の連結について学習する。					夏山
第20回	関節靭帯各論8：下肢帯の連結について学習する。					
第21回	関節靭帯各論9：自由下肢骨の連結について学習する。					夏山
第22回	関節靭帯各論10：自由下肢骨の連結について学習する。					
第23回	前期のまとめ					夏山

授業計画		講師名
第 24 回 第 25 回	筋学総論 1 : 筋学の基礎について概論を説明する。 筋学総論 2 : 筋学の基礎について概論を説明する。	夏山
第 26 回 第 27 回	筋学各論 1 : 上肢帯の筋について学習する。 筋学各論 2 : 上肢帯の筋について学習する。	夏山
第 28 回 第 29 回	筋学各論 3 : 上腕の筋について学習する。 筋学各論 4 : 上腕の筋について学習する。	夏山
第 30 回 第 31 回	筋学各論 5 : 前腕の筋について学習する。 筋学各論 6 : 前腕の筋について学習する。	夏山
第 32 回 第 33 回	筋学各論 7 : 手の筋について学習する。 筋学各論 8 : 下肢帯の筋について学習する。	夏山
第 34 回 第 35 回	筋学各論 9 : 下肢帯の筋について学習する。 筋学各論 10 : 大腿の筋について学習する。	夏山
第 36 回 第 37 回	筋学各論 11 : 大腿の筋について学習する。 筋学各論 12 : 下腿の筋について学習する。	夏山
第 38 回 第 39 回	筋学各論 13 : 下腿の筋について学習する。 筋学各論 14 : 足の筋について学習する。	夏山
第 40 回 第 41 回	筋学各論 15 : 頭部の筋について学習する。 筋学各論 16 : 頸部の筋について学習する。	夏山
第 42 回 第 43 回	筋学各論 17 : 胸部の筋について学習する。 筋学各論 18 : 腹部の筋について学習する。	夏山
第 44 回 第 45 回	筋学各論 19 : 背部の筋について学習する。 まとめ	夏山
備考		

科目名	解剖学実習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	演習	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 隼一郎・村越 由季子					
授業概要	骨・筋の触診を行う					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の身体上で骨・筋の触診ができるようになる ・教科書通り手順（プロセス）をおって実施できるようになる 					
教科書	機能解剖学的触診技術 上肢・下肢 【メディカルビュー】					
参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 【医学書院】 プロメテウス解剖学アトラス 運動器系 【医学書院】 基礎運動学 第6版 【医学書院】					
成績評価方法	実技試験	定期試験			計	
	25 点×4	点		点	100 点	
予習・復習のポイント	解剖学を事前に予習し、受講するとより理解が深まる。また、繰り返し実技の練習を行うことで知識の定着に繋がる。					
授業計画						講師名
第1回	オリエンテーション 鎖骨【肩峰端・胸骨端】 肩甲骨【肩甲棘・肩峰・内側縁】					村仲・村越
第2回	肩甲骨【外側縁・関節下結節・烏口突起・上角・下角】 /胸郭【胸骨柄・頸切痕・胸骨体・剣状突起】					村仲・村越
第3回	上腕骨【大結節・小結節・結節間溝・外側上顆・内側上顆・上腕骨小頭・肘頭窩・上腕骨滑車】/橈骨【橈骨頭・橈骨茎状突起・リスター結節】/尺骨【肘頭・尺骨頭・尺骨茎状突起】					村仲・村越
第4回	手根骨【豆状骨・三角骨・舟状骨・月状骨・大菱形骨・小菱形骨・有頭骨・有鉤骨】 /骨盤【腸骨稜・上前腸骨棘・下前腸骨棘・坐骨結節】					村仲・村越
第5回	骨盤【腸骨稜・上前腸骨棘・下前腸骨棘・坐骨結節】/大腿骨【大転子・大腿骨頭・大腿骨膝蓋面、大腿骨内側顆・大腿骨外側顆・大腿骨内側上顆・大腿骨外側上顆・内転筋結節】					村仲・村越
第6回	下腿【膝蓋骨・脛骨粗面、脛骨内側顆・脛骨外側顆、腓骨頭・内果・外果】					村仲・村越
第7回	脊柱【外後頭隆起・頸椎棘突起・腰椎棘突起】 復習					村仲・村越
第8回	三角筋・大胸筋・棘上筋・棘下筋					村仲・村越
第9回	小円筋・大円筋・肩甲下筋・広背筋					村仲・村越
第10回	烏口腕筋・僧帽筋・菱形筋・肩甲挙筋・					村仲・村越
第11回	小胸筋・前鋸筋・上腕二頭筋・上腕筋					村仲・村越
第12回	腕橈骨筋・上腕三頭筋・肘筋・円回内					村仲・村越
第13回	方形回内筋・回外筋・その他					村仲・村越
第14回	復習・上肢筋テスト1					村仲・村越

授業計画		講師名
第 15 回	長掌筋・橈側手根屈筋・尺側手根屈筋	村仲・村越
第 16 回	長橈側手根伸筋・短橈側手根伸筋・尺側手根伸筋・総指伸筋・	村仲・村越
第 17 回	示指伸筋・小指伸筋長母指伸筋・短母指伸筋・長母指外転筋・	村仲・村越
第 18 回	浅指屈筋・深指屈筋長母指屈筋・短母指屈筋・短母指外転筋・	村仲・村越
第 19 回	母指内転筋・母指対立筋・小指外転筋・短小指屈筋	村仲・村越
第 20 回	小指対立筋・虫様筋・背側骨間筋・掌側骨間筋・	村仲・村越
第 21 回	復習・上肢筋テスト 2	村仲・村越
第 22 回	腸骨筋・大腰筋・縫工筋・大腿筋膜張筋	村仲・村越
第 23 回	中殿筋大殿筋・梨状筋・長内転筋・恥骨筋	村仲・村越
第 24 回	大内転筋・大腿直筋・内側広筋・外側広筋・中間広筋	村仲・村越
第 25 回	半腱様筋・半膜様筋・大腿二頭筋・薄筋	村仲・村越
第 26 回	膝窩筋・前脛骨筋・腓腹筋・ヒラメ筋	村仲・村越
第 27 回	後脛骨筋・長腓骨筋・短腓骨筋復習	村仲・村越
第 28 回	復習	村仲・村越
第 29 回	復習	村仲・村越
第 30 回	下肢の筋 触診確認	村仲・村越
備考	<p>解剖学実習における物理的環境及び仕様物品</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教室は、演習が可能な広さを担保できる木工室で行う。 2) 木工室ではグループワーク用の机の周りに、向き合いながら 5 人～6 人のグループで着席する。 3) 骨の詳細な部位の確認のため、骨模型を 5 グループ 1 ケースごと使用する。 4) 筋の詳細な部位の確認のため、筋肉パズルを 5 グループ 1 ケースごと使用する。 5) 関節とそれぞれの骨の繋がりの確認のため、骨標本を 5 グループ 1 体づつ使用する。 <p>解剖学実習における実技演習の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2 人～3 人の組を作り、被検者役・検査者役に分かれ、それぞれの身体を触れ、時に密接な距離をとりながら、実際の人体に配置されている骨の確認を行う。 2) 演習の中で主に治療台を使用し、被験者は触診に必要な様々な臥位・座位の肢位を繰り返す。 3) 授業の前後には、衛生面の配慮からスタンダードプリコーションを実施する。 4) 授業参加にはマスクの着用を必須とする <p>解剖学実習における感染予防対策</p> <p>触診を用いた学習は、概念的な理解に加えて、実際の人体を使った演習と連合せなければ、効果的な学習が困難であると予測されるため、以下の感染予防対策を用いて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被験者・検査者役は原則、同一グループで実施する。(ローテーションを行わない) 2) 授業参加にはマスクの着用を必須とする 3) 1 つの骨・筋に対し、手洗いと手指消毒を徹底する。 4) 厚労省が提示する咳エチケットを順守する。 5) 飛沫が飛ぶような大きな声で実施しない。 	

科目名	生理学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 富田 エミ					
授業概要	細胞、組織、器官、個体レベルにおける固有機能、固有機能が統合されたシステムとその調節機構、それらの相互作用により生体の内部環境が一定の範囲内（正常）に維持されるためにどのような制御機構が働いているかを理解する。講義の内容は、生体の恒常性維持機構、細胞、神経、筋、骨、感覚、血液、心臓と循環等である。					
到達目標	ヒトの生命維持の基礎である生理学について理解し、専門職者として必要な時に知識を利用することができるようになる。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版【医学書院】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他	計		
	68 点	12 点	20 点	100 点		
予習・復習のポイント	予習では予めテキストに目を通し不明な点を明確にしておき、復習では講義後に間を空けずに確認作業と行う習慣をつけること。試験前にまとめ行うことはおすすめしません。					
授業計画						講師名
第 1 回	ガイダンス、評価について 生理学の概要、生命現象とホメオスタシス					富田
第 2 回	【生体の恒常性維持機構】 生命現象とホメオスタシス					富田
第 3 回	【細胞】 細胞の構造と機能、静止電位と活動電位					富田
第 4 回	【組織】 組織の分類、					富田
第 5 回	【外皮】 皮膚、皮膚付属器の構造、機能					富田
第 6 回	【神経①】 神経細胞の構造、興奮の伝導					富田
第 7 回	【神経②】 末梢神経、自律神経、シナプス					富田
第 8 回	【神経③】 中枢神経系					富田
第 9 回	【筋】 筋の分類、骨格筋、心筋、平滑筋、収縮メカニズム					富田
第 10 回	【骨の連結】 関節、軟骨、					富田
第 11 回	【骨】 骨代謝					富田
第 12 回	【感覚①】 体性感覚、皮膚感覚、内臓感覚					富田
第 13 回	【感覚②】 特殊感覚、視覚、聴覚					富田
第 14 回	【感覚③】 嗅覚、平衡覚、味覚					富田
第 15 回	まとめ 全体のまとめ					富田
備考	成績評価のその他＝出席点					

科目名	生理学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 富田 エミ					
授業概要	細胞、組織、器官、個体レベルにおける固有機能、固有機能が統合されたシステムとその調節機構、それらの相互作用により生体の内部環境が一定の範囲内（正常）に維持されるためにどのような制御機構が働いているかを理解する。講義の内容は、内分泌系、心臓と循環、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器等である。					
到達目標	ヒトの生命維持の基礎である生理学について理解し、専門職者として必要な時に知識を利用することができるようになる。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版【医学書院】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他	計		
	68 点	12 点	20 点	100 点		
予習・復習のポイント	予習では予めテキストに目を通し不明な点を明確にしておき、復習では講義後に間を空けずに確認作業と行う習慣をつけること。試験前にまとめ行うことはおすすめしません。					
授業計画						講師名
第1回	【内分泌系①】 ホルモン作用、甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎					富田
第2回	【内分泌系②】 精巣と卵巣、松果体、ストレス反応					富田
第3回	【心臓と循環①】 循環と心臓、心収縮、心電図、心周期					富田
第4回	【心臓と循環②】 血圧の調節、圧-容積関係、血管					富田
第5回	【心臓と循環③】 微小循環、静脈寒流、リンパ循環					富田
第6回	【リンパ系】 リンパ系、リンパ循環、免疫機能					富田
第7回	【呼吸器系】 呼吸器系の器官、換気、呼吸、ガスの運搬、交換					富田
第8回	【消化器系】 口から大腸、加齢と消化器系					富田
第9回	【栄養と代謝】 栄養素、代謝、熱					富田
第10回	【泌尿器系】 腎臓の構造、ネフロン、尿の輸送、貯蔵、排出					富田
第11回	【血液】 血液区分、血液凝固、抗体、					富田
第12回	【体液、電解質と酸塩基平衡】 体液区分と体液バランス、電解質					富田
第13回	【生殖器系】 弾性生殖器、女性生殖器、女性周期、加齢と生殖器					富田
第14回	【発生と遺伝】 妊娠から分娩、遺伝、					富田
第15回	まとめ 全体のまとめ					富田
備考	成績評価のその他＝出席点					

科目名	生理学実習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	実習	単位	1 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 内山 秀一					
授業概要	生理学は、人の体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、様々な生理学的な実習を行い、生理学の基本事項について学ぶ。					
到達目標	人の体の正常機能について、実験実習の結果をもとに、生理学的な理論の裏付けを知るとともに、学生自らが種々の生理機能の独立性と関連性を考察できるようになること。					
教科書	プリントを配付					
参考書	なし					
成績評価方法	レポート	その他			計	
	60 点	40 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	各テーマの基礎的事項について、事前に整理しておくこと。 レポート作成あたっては、確かな情報を用いること。					
授業計画						講師名
第 1 回 第 2 回	生理学実習の授業の方針、内容、評価の方法についてのガイダンスを行う。血液成分の観察、止血時間、血液型の判定を行う。					内山
第 3 回 第 4 回	間接法による血圧測定を習得し、種々の刺激に伴う血圧の変動を測定することから、血圧変化の機序を学ぶ。					内山
第 5 回 第 6 回	心拍数の測定と心電図の解析：種々の刺激に伴う心拍数の変化を測定する。臨床的にも必要不可欠な心電図 12 誘導を記録し、その波形を測定、解析する。					内山
第 7 回 第 8 回	種々の刺激による呼吸数の変化と、スパイログラムによる呼吸機能の測定法と評価法を学ぶ。					内山
第 9 回 第 10 回	自転車エルゴメータを用いて最大酸素摂取量を推定する。酸素摂取量、心拍数、主観的な運動強度などの変化から、各指標間の関係についても考える。					内山
第 11 回 第 12 回	骨格筋の収縮様式（等尺性収縮・短縮性収縮）と発揮される力の違いと筋放電量との関係を考察する。また、疲労による筋電図の変化を考察する。					内山
第 13 回 第 14 回	動作時の筋活動を複数の筋から導出し、運動と筋の活動について観察する。電氣的刺激による誘発筋電図から、神経伝導速度を求める。					内山
第 15 回	まとめ					内山
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、実習内容に関する資料を配布する。 ・ レポートの提出は、原則として次回の授業開始時とする。 ・ 成績評価における「その他」とは、授業に取り組む積極的な態度（質問や発言など）とします。 					

科目名	運動学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保洋平					
授業概要	人体の運動を力学的観点から学習する					
到達目標	解剖学的知識を基に、関節の構造、筋の付着から運動の仕組みを理解する 人体の動きを運動学的に説明できる					
教科書	基礎運動学 第6版 補訂 / プロメテウス 解剖学アトラス第3版					
参考書						
成績評価方法	期末試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	シラバスを読み、教科書の該当箇所を授業前後に読む。					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション 運動の空間的側面（面と軸）を理解する 基本的肢位／解剖学的肢位／前額面／矢状面／水平面／垂直軸／矢状水平軸／前額水平軸					神保洋
第 2 回	てこの原理／道具におけるてこ／身体におけるてこ					神保洋
第 3 回	上肢帯の関節構造					神保洋
第 4 回	上肢帯の筋作用					神保洋
第 5 回	肩関節の関節構／浅い関節構造をどのように補強しているか					神保洋
第 6 回	肩関節の筋作用／回旋筋腱板／肩甲上腕リズム					神保洋
第 7 回	肘関節と前腕の動きを理解する 肘の 3 つの屈筋の違いを理解する					神保洋
第 8 回	まとめ					神保洋
第 9 回	手関節の関節構造・手の動きに橈骨手根関節と手根中央関節はどう連携しているか					神保洋
第 10 回	指の動きを理解する／浅指屈筋と深指屈筋の違い／CM 関節の特徴／長母指外転筋と短母指外転筋の違い					神保洋
第 11 回	指の動きを理解する／指背腱膜の構造を理解する 虫様筋・骨間筋の役割の違いを理解する					神保洋
第 12 回	筋の作用・反作					神保洋
第 13 回	筋の収縮様式（等尺性収縮、等張性収縮、求心性収縮、遠心性収縮）					神保洋
第 14 回	応用課題					神保洋
第 15 回	全体まとめ					神保洋
備考						

科目名	運動学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	4 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保 洋平					
授業概要	人体の運動を力学的観点から学習する					
到達目標	下肢・体幹の運動の仕組みを理解する 重心と反力、モーメントの概念を活用し、動作の分析が出来る 運動に関与する神経基盤／運動に伴う循環器系の変化／エネルギー代謝を理解する 姿勢や歩行を動作分析的視点で見ることが出来る					
教科書	基礎運動学第 6 版【医歯薬出版】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス運動器系【医学書院】					
成績評価方法	中間テスト	期末テスト			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	【予習】各授業のテーマに該当する教科書を読む 【復習】授業のポイント、キーワードを整理する					
授業計画						講師名
第 1 回	股関節の関節構造と靭帯の作用を理解する					神保洋
第 2 回	股関節の関節構造を理解する					神保洋
第 3 回	股関節の筋の作用を理解し空間的に出来る					神保洋
第 4 回	膝関節と靭帯の作用を理解する					神保洋
第 5 回	膝関節構造を理解する					神保洋
第 6 回	膝筋の作用を空間的に理解する					神保洋
第 7 回	足関節の関節構造と靭帯の作用を理解する					神保洋
	足の筋の作用を理解し空間的に出来る					
第 8 回	足のアーチ構造を理解し、アーチを支えている仕組みを理解する					神保洋
第 9 回	運動学習の理論					神保洋
第 10 回						
第 11 回	エネルギー代謝（カロリー／基礎代謝／エネルギー代謝率／代謝当量）					神保洋
第 12 回						神保洋
第 13 回	筋のエネルギー代謝					神保洋
第 14 回	復習課題					神保洋
第 15 回	前半まとめ					神保洋

授業計画		講師名
第 16 回	表情筋・顎関節の運動学	神保洋
第 17 回	頸部～体幹の運動学	神保洋
第 18 回	頸部～体幹の運動学	神保洋
第 19 回	呼吸の運動学	神保洋
第 20 回	呼吸の運動変化（呼吸生理学）	神保洋
第 21 回	運動学的分析の手順を理解する	神保洋
第 22 回	第 21 回の内容を踏まえ、重心・姿勢と筋活動を分析的に理解する	神保洋
第 23 回	第 21 回の内容を踏まえ、重心・姿勢と筋活動を分析的に理解する	神保洋
第 24 回	歩行周期を理解する	神保洋
第 25 回	歩行周期の角度変化について理解する (股関節・膝関節・足関節・骨盤)	神保洋
第 26 回	歩行周期における床反力・重心移動の変化を理解する	神保洋
第 27 回	歩行周期における筋活動を理解する	神保洋
第 28 回	小児と高齢者の歩行について理解を深める	神保洋
第 29 回	復習課題	神保洋
第 30 回	後半まとめ	神保洋
備考		

科目名	人間発達学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 黒住 享弘					
授業概要	人間の誕生から死に至るまでの心の成長・変化を学ぶ					
到達目標	発達理論や研究法に対する正しい知識を身につける 正常発達に関する各期の特長を学ぶ					
教科書	手に取るように発達心理学が分かる本【かんき出版】					
参考書	はじめての臨床心理学【北樹出版】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回	発達の概念 発達理論 生涯発達心理学の分類 生物学的発達の特徴					黒住
第 2 回	心理学的発達の歴史Ⅰ ハヴィガーストの発達課題 ピアジェの思考発達段階説					黒住
第 3 回	心理学的発達の歴史Ⅱ フロイトのリビドー発達段階理論 エリクソンの心理社会発達段階（ライフサイクル論）					黒住
第 4 回	生涯発達心理学研究法 横断研究 縦断研究 コホート研究法 発達の規定要因 測定法					黒住
第 5 回	遺伝と環境 遺伝と環境 運動の発達 人間からヒトへ 学習					黒住
第 6 回	新生児期 臨界期 インプリンティング 先行注視法					黒住
第 7 回	乳児期 乳児の聴覚 乳児の記憶 ボウルビィの愛着理論					黒住
第 8 回	幼児期Ⅰ 安全基地 言葉の発達 脱自己中心化 自己認知					黒住
第 9 回	幼児期Ⅱ 遊びと発達 誤信念課題 コールバーグの道徳判断発達段階					黒住
第 10 回	児童期 自己・他者認知と仲間関係の発達 児童分析					黒住
第 11 回	青年期Ⅰ 5つの発達課題 価値観の確立と自我同一性					黒住
第 12 回	青年期Ⅱ 青年期の発達段階（親子関係・友人関係・知的機能） 思春期危機 自我同一性拡散					黒住
第 13 回	成人期 ライフコースの多様性（職業生活・家族計画） 中年期の心的問題					黒住
第 14 回	老年期 エイジングとパーソナリティ 老年期の知的機能と死への対応					黒住
第 15 回	まとめ					黒住
備考	主に終講テストを基準とし、授業態度・提出物等を含めた上で総合評価・判断する					

科目名	病理学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 代田 欣二					
授業概要	ヒトの基本的病変の成立機序と病態形成過程に関する基本的知識を学ぶ。					
到達目標	医療従事者として、病気の原因や病変の成り立ち、転帰を理解する。医学で用いられる病理用語を正確に理解し、使えるようにする。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版【医学書院】					
参考書	必要に応じて資料を配布する。					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	指定した教科書や配布資料を繰り返し読んで、予習・復習のために役立ててほしい。					
授業計画						講師名
第1回	総論－病理学の概要（第1章）、病因論（第2章）について解説する。					代田
第2回	総論－退行性病変、進行性病変（第3章）について解説する。					代田
第3回	総論－代謝障害（第4章）：蛋白質・アミノ酸、核酸、脂質、糖質、無機物質、色素代謝異常について解説する。					代田
第4回	総論－循環障害（第5章）：体液循環機構、局所循環障害、全身循環障害について解説する。					代田
第5回	総論－免疫（第6章）：免疫の概念、免疫の成立、免疫反応による傷害・炎症、移植免疫について解説する。					代田
第6回	総論－炎症と感染症（第7章）：炎症、感染症について解説する。					代田
第7回	総論－腫瘍1（第8章）：腫瘍の定義と分類、腫瘍の形態、悪性腫瘍の進展形式について解説する。					代田
第8回	総論－腫瘍2（第8章）：腫瘍発生の原因、発がんメカニズム、老化（第9章）：生理的老化・寿命、加齢による生理的老化、加齢と疾患について解説する。					代田
第9回	総論－先天異常・奇形（第10章）：先天異常・奇形の概念、遺伝子異常と遺伝性疾患、染色体異常、奇形について解説する。					代田
第10回	各論－循環器（第1章）、呼吸器（第2章）：主な循環器と呼吸器疾患について解説する。					代田
第11回	各論－消化器（第3章）：主な消化器疾患について解説する。					代田
第12回	各論－神経系（第4章）・運動器（第5章）：主な神経系・運動器疾患について解説する。					代田
第13回	各論－泌尿器・生殖器（第6章）、内分泌臓器（第7章）：主な泌尿器・生殖器、内分泌疾患について解説する。					代田
第14回	各論－造血器（第8章）、皮膚・感覚器（第9章）：主な造血器、皮膚・感覚器疾患について解説する。					代田
第15回	まとめ					
備考	内容が多いため、総論の授業においても具体的な疾患について触れるので、各自その都度各論の該当部分を勉強してほしい					

科目名	臨床心理学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 黒住 享弘					
授業概要	臨床心理学における基礎的な側面についての学習を進める。さらに対人援助職において、臨床心理学的な視点を持つことの重要性についても理解を深めることを目的とする。					
到達目標	生涯発達の視点にたった人間の心身の発達過程の理解すること 臨床心理学的なアセスメントを理解すること 臨床心理学的なセラピーについて理解すること					
教科書	はじめての臨床心理学【北樹出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	配布資料を軸に教科書の解説を加えた形式にて授業を進めるため、予習復習ともに教科書の内容に目を通すことをポイントとする。					
授業計画						講師名
第 1 回	臨床心理学とは 臨床心理学とは何か、心理学とは何か？					黒住
第 2 回	フロイトと心理学 フロイト、防衛機制					黒住
第 3 回	臨床心理学の歴史 欧米及び日本の臨床心理学の歴史					黒住
第 4 回	心理療法 I 精神分析（フロイト）・分析心理学（ユング）など					黒住
第 5 回	心理療法 II 心理療法（精神分析・分析心理学以外）					黒住
第 6 回	精神力動と認知行動療法 精神力動と認知行動療法					黒住
第 7 回	学習理論 学習理論及び行動療法					黒住
第 8 回	人間性心理学 クライアント中心療法					黒住
第 9 回	心理療法の基礎 心理療法とカウンセリングの違い、基本的な態度など					黒住
第 10 回	発達臨床心理学 心理発達・ライフサイクルについて					黒住
第 11 回	心理アセスメントとは 心理アセスメントについて					黒住
第 12 回	心理検査各論 I 心理検査の説明－知能検査					黒住
第 13 回	心理検査各論 II 心理検査の説明－人格検査					黒住
第 14 回	体験学習 エゴグラムなど					黒住
第 15 回	まとめ					黒住
備考						

科目名	内科学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 辻 千鶴子					
授業概要	将来目指している PT・OT 業務の、円滑な実践に役立つ循環器内科学（総論・検査・各論）の一般的知識を修得する。					
到達目標	①循環器の解剖・生理の理解 ②循環器疾患の主たる症状・徴候・所見の理解 ③循環器疾患の検査、特に心電図の理解					
教科書						
参考書	ナースの内科学【中外医学社】 病気が見える VOL2 循環器【メディックメディア】					
成績評価方法	定期試験	小テスト			計	
	80 点	20 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	配付資料・参考書を活用し予習復習すること					
授業計画						講師名
第 1 回	総論 循環器の基礎的解剖・生理①					辻
第 2 回	総論 循環器の基礎的解剖・生理②					辻
第 3 回	総論 循環器疾患の症状、徴候・所見					辻
第 4 回	総論 循環器疾患の検査：心電図①					辻
第 5 回	総論 循環器疾患の検査：心電図②					辻
第 6 回	小テスト（心電図） 総論 循環器疾患の検査：胸部レントゲン検査、心臓エコー検査					辻
第 7 回	総論 循環器疾患の検査：心臓カテーテル検査、運動負荷試験、その他の検査					辻
第 8 回	各論 心不全- 左心不全、右心不全、両心不全 慢性心不全・急性心不全・ショック					辻
第 9 回	各論 虚血性心疾患-狭心症、心筋梗塞、急性冠症候群 とその治療、心臓リハビリテーション					辻
第 10 回	小テスト（心不全、虚血性心疾患） 各論 高血圧症-本態性高血圧症・二次性高血圧症、低血圧症					辻
第 11 回	各論 心臓弁膜疾患-僧帽弁膜症・大動脈弁膜症					辻
第 12 回	各論 先天性心疾患-心房中隔欠損・心室中隔欠損・動脈管開存・ファロー四徴					辻
第 13 回	各論 心筋症-肥大型・拡張型、心膜炎、心筋炎、大動脈疾患、静脈疾患					辻
第 14 回	演習					辻
第 15 回	まとめ					辻
備考						

科目名	内科学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 西戸 輝彦 武市 尚也 辻 正富					
授業概要	各代謝機能を通じて、検査データの読み方を学ぶ					
到達目標	基本的な検査データとその臨床的意義を習得する					
教科書	ナースの内科学【中外医学社】					
参考書	プリントを配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書をよみ、配布するプリントで復習する					
授業計画						講師名
第 1 回	腎臓の解剖と代謝の基礎					西戸
第 2 回	腎臓に関する検査データの読み方（尿検査を中心に）					西戸
第 3 回	肝臓の解剖と代謝の基礎					西戸
第 4 回	肝臓に関する検査データの読み方（生化学検査を中心に）					西戸
第 5 回	肺の解剖と肺機能の評価（肺活量、努力性肺活量の評価）					西戸
第 6 回	造血（骨髄、脾臓）の基礎と血液の代謝					西戸
第 7 回	末梢血に関する検査データの読み方（末梢血検査の基礎）					西戸
第 8 回	血液凝固と線溶系の基礎（凝固関連検査を中心に）					西戸
第 9 回	脾臓の解剖と代謝の基礎					西戸
第 10 回	胆のうの解剖と代謝の基礎					西戸
第 11 回	心臓リハビリテーション 1					武市
第 12 回	心臓リハビリテーション 2					武市
第 13 回	がんについて					西戸
第 14 回	小児の心臓病					辻
第 15 回	まとめ					西戸
備考	授業計画（講義内容）の順番が変わることがあります。					

科目名	神経内科学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 廣瀬 好文					
授業概要	中枢・末梢神経系の解剖・生理を基礎として神経・筋の変性疾患を解説する。					
到達目標	神経・筋の変性疾患を基礎的な解剖・生理の知識を土台にして理解する。					
教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経【メディックメディア】					
参考書	プリント配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書で予習し配布するプリントで復習すること					
授業計画						講師名
第 1 回	神経系の全体像と大脳皮質 (1)					廣瀬
第 2 回	神経系の全体像と大脳皮質 (2)					廣瀬
第 3 回	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳・脳幹・小脳					廣瀬
第 4 回	中枢神経系の血管とその障害					廣瀬
第 5 回	運動麻痺・不随意運動・運動失調					廣瀬
第 6 回	感覚					廣瀬
第 7 回	自律神経					廣瀬
第 8 回	末梢神経とその障害					廣瀬
第 9 回	神経変性疾患 パーキンソン病・パーキンソン症候群・ハンチントン病					廣瀬
第 10 回	神経変性疾患 認知症					廣瀬
第 11 回	神経変性疾患 脊髄小脳変性・筋萎縮性側索硬化症					廣瀬
第 12 回	脱髄疾患 多発性硬化症・ギャランバレー症候群					廣瀬
第 13 回	筋疾患					廣瀬
第 14 回	脊髄椎・脊柱疾患					廣瀬
第 15 回	まとめ					廣瀬
備考						

科目名	神経内科学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 石井 映幸 伊藤 恒					
授業概要	臨床神経学を病気の成り立ちから解説する。 実際の症例を用い、基礎医学の知識を臨床医学へ応用できる力を身につける。					
到達目標	国家試験に出題される範囲を押さえつつ、基礎医学の知識を臨床医学へ応用できるようにする。					
教科書	病気が見える VOL7 脳・神経 【メディックメディア】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習は教科書、復習は配布プリントを読み、理解し辛い箇所は講師に質問する					
授業計画						講師名
第 1 回	脳血管障害Ⅰ（総論）					伊藤
第 2 回	脳血管障害Ⅱ（各論：脳梗塞・脳出血）					伊藤
第 3 回	神経感染症					伊藤
第 4 回	てんかん					伊藤
第 5 回	症状から見る神経疾患Ⅰ（頭痛）					伊藤
第 6 回	症状から見る神経疾患Ⅱ（めまい）					伊藤
第 7 回	症状から見る神経疾患Ⅲ（しびれ）					伊藤
第 8 回	脳卒中Ⅰ（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）					石井
第 9 回	脳卒中Ⅱ（くも膜下出血の治療）					石井
第 10 回	水頭症（症状と治療）					石井
第 11 回	脳腫瘍Ⅰ（悪性腫瘍）					石井
第 12 回	脳腫瘍Ⅱ（良性腫瘍）					石井
第 13 回	頭部外傷・脳ヘルニア					石井
第 14 回	意識障害・脳死					石井
第 15 回	まとめ					
備考	定期試験は、2名の講師からそれぞれ 50 点満点の試験を課し、その試験の合計 100 点にて評価する					

科目名	整形外科学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 菅原 仁 阿部 幸一郎					
授業概要	整形外科疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ					
到達目標	理学療法・作業療法を実施するために必要な整形外科疾患の基礎事項を修得する					
教科書	標準 理学療法学作業療法学 整形外科学【医学書院】					
参考書	なし					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習復習には教科書を活用すること					
授業計画						講師名
第 1 回	総論 整形外科の基礎知識 1					菅原
第 2 回	総論 整形外科の基礎知識 2					菅原
第 3 回	総論 整形外科の基礎知識 3					菅原
第 4 回	総論 整形外科の基礎知識 4					菅原
第 5 回	総論 整形外科的治療法 1					菅原
第 6 回	総論 整形外科的治療法 2					菅原
第 7 回	各論 脊椎の疾患					阿部
第 8 回	各論 脊髄損傷					阿部
第 9 回	各論 代謝・内分泌疾患 1					阿部
第 10 回	各論 代謝・内分泌疾患 2					阿部
第 11 回	各論 循環障害と壊死性疾患 1					阿部
第 12 回	各論 循環障害と壊死性疾患 2					阿部
第 13 回	各論 先天性骨・関節疾患 1					阿部
第 14 回	各論 先天性骨・関節疾患 2					阿部
第 15 回	まとめ					
備考	定期試験は 2 名の講師それぞれから 50 点満点の試験を課し、2 つの試験の合計 100 点にて評価する					

科目名	整形外科学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 準一郎 松井 剛					
授業概要	整形外科疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ					
到達目標	理学療法・作業療法を実施するために必要な整形外科疾患の基礎事項を修得する					
教科書	標準 理学療法学作業療法学 整形外科学【医学書院】					
参考書	なし					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習復習には教科書を活用すること					
授業計画						講師名
第 1 回	各論 炎症的疾患 1					村仲
第 2 回	各論 炎症的疾患 2					村仲
第 3 回	各論 骨・軟部腫瘍					松井
第 4 回	各論 神経・筋疾患					松井
第 5 回	各論 骨折 1					村仲
第 6 回	各論 骨折 2					村仲
第 7 回	各論 関節における外傷性疾患 1					松井
第 8 回	各論 関節における外傷性疾患 2					松井
第 9 回	各論 末梢神経における外傷性疾患 1					村仲
第 10 回	各論 末梢神経における外傷性疾患 2					村仲
第 11 回	各論 腱・靭帯における外傷性疾患					松井
第 12 回	各論 スポーツ障害					松井
第 13 回	各論 熱傷 切断および離断					松井
第 14 回	各論 変性疾患(退行性・代謝性)					村仲
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	臨床医学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 曲 寧、廣瀬 好文、遠藤 朱美					
授業概要	各疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ					
到達目標	各疾患の理学療法・作業療法を実施するために必要な医学的知識を習得する					
教科書	標準 理学療法学作業療法学 小児科学【医学書院】					
参考書	なし					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	小児科学: 予習復習には教科書を活用すること その他診療科項目: 復習は配布したプリント等活用すること					
授業計画						講師名
第 1 回	小児科学 小児科学概論					曲
第 2 回	小児科学 先天異常と遺伝病					曲
第 3 回	外科 胸部悪性腫瘍					廣瀬
第 4 回	外科 末梢血管疾患					廣瀬
第 5 回	小児科学 新生児・未熟児疾患					曲
第 6 回	耳鼻咽喉科学 嚥下障害					遠藤
第 7 回	小児科学 骨系疾患					曲
第 8 回	耳鼻咽喉科学 嚥下障害					遠藤
第 9 回	小児科学 消化器疾患、内分泌・代謝疾患					曲
第 10 回	耳鼻咽喉科学 めまい・顔面神経麻痺					遠藤
第 11 回	眼科 白内障・緑内障・糖尿病網膜症					
第 12 回	小児科学 循環器疾患・呼吸器疾患					曲
第 13 回	外科 腹部悪性腫瘍					廣瀬
第 14 回	小児科学 神経・筋疾患					曲
第 15 回	まとめ					曲
備考	教科書は小児科学の講義で使用。他の診療分野はプリントを配付。 定期試験は、各講師から出題した試験を実施する。					

科目名	精神医学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	30 コマ	時間数
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	作業療法士に必要な精神医学を学ぶ					
到達目標	作業療法を実施するために必要な ①精神医学の総論について説明できる ②精神症候学について説明できる ③各精神疾患について説明できる					
教科書	精神医学第3版【医学書院】					
参考書	精神疾患の理解と精神科作業療法【中央法規】 現代臨床精神医学【金原出版】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	シラバスに従い、教科書の該当箇所を熟読し講義に臨むこと。 講義内容に従い、過去の国家試験問題の該当箇所を学習すること。					
授業計画						講師名
第1回	精神医学とは 正常と異常 Tx. P2-6					高橋
第2回	精神障害者の処遇の歴史と法規 Tx. P6-10 252-270					高橋
第3回	精神障害の診断と評価 成因と分類 病識と病感 Tx. P11-15					高橋
第4回	意識とその障害 知能とその障害 Tx. P16-38					高橋
第5回	性格とその障害 記憶とその障害 Tx. P16-38					高橋
第6回	感情とその障害 欲動、意志とその障害 Tx. P16-38					高橋
第7回	自我意識とその障害 知覚とその障害 Tx. P16-38					高橋
第8回	思考とその障害 Tx. P16-38					高橋
第9回	思考とその障害 Tx. P16-38					高橋
第10回	精神状態像 神経心理学的症状 Tx. P38-45					高橋
第11回	精神障害分野における検査 Tx. P53-67					高橋
第12回	前期 課題の整理					高橋
第13回	まとめ					高橋
第14回	まとめ					高橋
第15回	まとめ					高橋

授業計画		講師名
第 16 回	統合失調症	高橋
第 17 回	統合失調症	高橋
第 18 回	気分障害 うつ病	高橋
第 19 回	気分障害 躁病	高橋
第 20 回	神経症性障害 不安神経症 パニック障害 広場恐怖 強迫神経症 解離・身体表現性障害	高橋
第 21 回	人格障害	高橋
第 22 回	摂食障害	高橋
第 23 回	精神作用物質 依存症	高橋
第 24 回	てんかん 精神遅滞 心理的発達障害	高橋
第 25 回	症状性精神障害	高橋
第 26 回	小児期から老年期の精神心理的特性と疾患の特徴	高橋
第 27 回	精神科における薬物療法	高橋
第 28 回	睡眠障害	高橋
第 29 回	認知症（脳器質性精神障害）	高橋
第 30 回	後期まとめ	高橋
備考	再試験の場合は、後期末再試験期間に前後期全範囲にて実施する。	

科目名	リハビリテーション医学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 田中 博					
授業概要	リハビリテーションに関与する様々な疾患の特長 リハビリテーション訓練を紹介					
到達目標	各疾患の特長をしっかりと把握した上で、どのようなリハビリ訓練を行っているのかを理解する					
教科書	リハビリテーション医学テキスト【南江堂】					
参考書	プリント配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点		点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書と配布プリントを使用して勉強すること					
授業計画						講師名
第 1 回	リウマチ性疾患とその辺縁疾患 関節リウマチおよび他の膠原病リハビリテーションについて説明					田中
第 2 回	小児疾患 小児のリハビリテーションについて説明					田中
第 3 回	切断 上肢および下肢の切断のリハビリについて説明					田中
第 4 回	骨・関節疾患 肩、膝、股の疾患に関するリハビリについて説明					田中
第 5 回	脊髄疾患 脊髄損傷、二分脊椎リハビリについて説明					田中
第 6 回	神経筋疾患 パーキンソン病、ALS 等のリハビリについて説明					田中
第 7 回	脊椎疾患 頰椎・腰椎を中心としたリハビリについて説明					田中
第 8 回	高齢者 高齢者に対するリハビリについて説明					田中
第 9 回	内部疾患① 循環器・呼吸器・腎臓・肝臓・糖尿病・肥満高血圧等のリハビリテーションについて説明					田中
第 10 回	内部疾患② 循環器・呼吸器・腎臓・肝臓・糖尿病・肥満高血圧等のリハビリテーションについて説明					田中
第 11 回	末梢循環障害 末梢循環障害のリハビリについて説明					田中
第 12 回	脳疾患 脳梗塞・脳出血などのリハビリについて説明					田中
第 13 回	末梢神経障害 末梢神経障害に対するリハビリについて説明					田中
第 14 回	その他の疾患 熱病やがんに対するリハビリについて説明					田中
第 15 回	まとめ					田中
備考						

科目名	リハビリテーション医学Ⅱ		対象学科		作業療法	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 星川 嘉一、兼坂 茂、辻 正富、加藤 裕久、佐野 和美、住吉 克彦、板橋由加里、小泉 由香里					
授業概要	本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズム、人体と栄養素の相互作用について栄養学の基礎、救急医療・画像診断についての基礎と概念、予防医学についての理学療法士分野における概念を理解することを目的とする。					
到達目標	理学療法を実施する際に必要な薬学、栄養学、画像診断学、救命・予防医学の知識を習得する。					
教科書	リハベーシック安全管理学・救急医療学【医歯薬出版】 理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション【南江堂】 リハビリテーション医療に活かす画像のみかた【南江堂】					
参考書	プリント配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	講義に集中することが肝要である。					
授業計画						講師名
第 1 回	リハビリテーションにおける薬学① 薬剤の体内動態および薬理作用					佐野
第 2 回	リハビリテーションにおける薬学② 薬剤の副作用および禁忌行為					加藤
第 3 回	リハビリテーションにおける栄養学① 栄養素の生理や代謝の仕組み					住吉
第 4 回	リハビリテーションにおける栄養学② 栄養素の消化吸収、エネルギー利用や生態の構成材料利用					住吉
第 5 回	リハビリテーションにおける画像診断学① CT・MRI の違いについて					星川
第 6 回	リハビリテーションにおける画像診断学② 中枢疾患(脳実質)の見方					星川
第 7 回	リハビリテーションにおける画像診断学③ 中枢疾患(脳血管)の見方					星川
第 8 回	リハビリテーションにおける画像診断学④ 整形疾患の見方					星川
第 9 回	リハビリテーションにおける救命医療① 救命医療と救命医学について					兼坂
第 10 回	リハビリテーションにおける救命医療② AED を含めた一般市民が行える心肺蘇生の実践					板橋 小泉
第 11 回	リハビリテーションにおける救命医療③ ICU における医療					兼坂
第 12 回	リハビリテーションにおける予防医療① 予防医学の歴史と基礎					辻
第 13 回	リハビリテーションにおける予防医療② 健康管理と身体トレーニング					辻
第 14 回	リハビリテーションにおける予防医療③ 疾患別予防医学の基礎知識					辻
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	リハビリテーション概論		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保匡良・高橋知之・山根剛・村越由紀子・村仲隼一郎					
授業概要	リハビリテーションの概要を理解する					
到達目標	<p>【知識・技術】 リハビリテーションに最低限必要な知識や概念を理解することができる (ICF/ICIDH, 生活/医学モデル, 医療保健システム, 他職種 of 理解, リハ領域 of 理解)</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 ・医学モデルと生活モデル of リハビリを区別して説明することができる ・リハビリとは何かを理解しその中における作業療法 of 役割を説明することができる</p> <p>【学びに向かう力】 ・社会システムにおけるリハビリの価値を理解し学習意欲を高めることができる</p>					
教科書	入門リハビリテーション概論第7版, 増補 ① 標準作業療法学 作業療法概論 第3版 ②					
参考書	随時紹介					
成績評価方法					計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	シラバスを読み、教科書の該当箇所を授業前後に読む。 講義該当箇所の国家試験問題を学習する。					
授業計画						講師名
第1回	リハビリテーションの定義や目的を説明できる					山根
第2回	リハビリテーションの職種について説明できる① (理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士・精神保健福祉士・リハ医師・ケアマネの役割を説明できる) チームアプローチについて説明できる					山根
第3回	リハビリテーションの職種について説明できる②					山根
第4回	リハビリテーションの職種について説明できる③					山根
第5回	医療保険システム① 地域包括ケアシステムの理解					村仲
第6回	医療保険システム② 地域包括ケアシステムの理解					村仲
第7回	リハビリテーションの分野・領域について説明できる① (身障・発達・精神・高齢期・地域リハ・急性期・回復期・慢性期など)					高橋
第8回	リハビリテーションの分野・領域について説明できる② (身障・発達・精神・高齢期・地域リハ・急性期・回復期・慢性期など)					高橋
第9回	障害の分類 ICF/ICIDH を説明できる①					村越
第10回	障害の分類 ICF/ICIDH を説明できる②					村越
第11回	障害の分類 ICF/ICIDH を説明できる③					村越
第12回	医学モデルと生活モデルを理解する①					匡良
第13回	医学モデルと生活モデルを理解する②					匡良
第14回	医学モデルと生活モデルを理解する③					匡良
第15回	まとめ					
備考						

科目名	社会福祉学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 扇谷 秀樹					
授業概要	2020 度より新カリキュラム施行となり、新設科目である 2 年次の医療社会学のベースとなる知識を提供するよう、本科目もそれに対応している。社会福祉学は社会保障制度の一分野であり、内容的に社会保障制度と社会福祉の実践を含んでいると推定される。そこで社会保障制度と対象者理解の基本を学ぶことにより、今後四年間の学習に資することを目的とする。授業前半（約 65 分前後）でテキスト 1（制度・知識等解説）、後半でテキスト 2（実践）について、講義を実施。他 DVD の視聴による演習（実技指導）も実施する。 ただし新型コロナウイルス感染症対策により、ほぼ講義が中心になると思われる。なお昨年の内容とは大幅に改変しているため、再履修者等は特に注意すること。					
到達目標	社会保障と社会福祉実践について理解し、その要点を簡潔に説明できること。					
教科書	1. いとう総研資格取得支援センター（編：2021）『見て覚える！精神保健福祉士国試ナビ 2022』中央法規 2. 前田ケイ（2021）『SST ウォーミングアップ活動集』金剛出版 3. 長坂和則（2021）『精神保健福祉士国家試験 専門科目キーワード』へるす出版他					
参考書	1. 直近 3 年間の厚生労働白書（厚生労働省 HP 内） 厚生労働白書 でクリック 2. 社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）。					
成績評価方法	定期試験	小テスト	レポート	計		
	100 点	左記包含	左記包含	100 点		
予習・復習のポイント	【予習】テキスト類について不明な用語を上記の③やネットで調べ、理解したうえで、授業に臨むこと（所要時間計 120 分前後）。【復習】内容を簡潔に口頭説明できること（＝国家試験に受かるレベルである）。所要時間 30 分前後：極力 24 時間以内に。					
授業計画（小・中テストは随時実施。各授業時間後半に、担当教員による解題有）						講師名
	教科書 1		教科書 2			
第 1 回	p 18-38.		p 3-12			扇谷
第 2 回	p 39-51.		p 15-20			扇谷
第 3 回	p 52-75		p 21-31.			扇谷
第 4 回	p 82-89		p 32-35.			扇谷
第 5 回	p 90-101.		テキスト記載 1～60 の活動で、当方で指定するグループごとに選んだものを 1 つずつ実際に行っていた。ただし教科書①の内容により、このパートは、教科書 1 の内容により、行わない場合がある。ホワイトボードを使ったものに限定して選択すること。ただし新型コロナウイルス感染症の状況により、DVD を活用した指導に変更することがある。 本パートの成果は、成績評価に含めるので注意すること。			扇谷
第 6 回	p 102-112. および配布資料					扇谷
第 7 回	p 113-125.					扇谷
第 8 回	p 126-143.					扇谷
第 9 回	p 144-165.					扇谷
第 10 回	p 166-181.					扇谷
第 11 回	p 182-196.					扇谷
第 12 回	p 198-223					扇谷
第 13 回	p 224-231.		扇谷			
第 14 回	DVD「精神科ソーシャルワーク入門」視聴に基づく演習及び実技指導					扇谷
第 15 回	まとめ					扇谷
備考	テキスト 3. は教科書 1、2 の授業時に活用し、定期試験の範囲に含める。 本科目は基本的に、高等学校で履修した範囲（現代社会、政治経済）がベースである。高等学校で上記科目を履修したことがない学生は、 <u>自助努力、自己責任</u> で対応すること（本授業では対応しない）。 配布資料は、原則教室でしか手に入らない。欠席者は事務課教務ご担当の方に申し出ること。 新型コロナウイルス感染症の状況により、ZOOM 等遠隔や課題提出での授業になる場合がある。 【担当教員連絡先】内線 506（土日勤務が多く、平日不在時が多いので注意されたい）。 （注意）小テストは予告なしに行うことがあるので、注意すること（小テスト合格者は優遇）。					

科目名	医療社会学		対象学科		作業療法学科	
			対象学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛・増田 信代・高田 麗・古谷 実・岩淵 裕					
授業概要	医療社会学の基本的概念、即ち、健康や疾病をめぐる社会的要因と社会的施策について、また、それらに関係する自立支援と就労支援、医療制度と社会制度について学ぶ。多職種の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えるとともに、自職種の役割を追究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療社会学の概念を理解できる 2 自立支援と就労支援、医療制度と社会保障制度について理解する 3 自己の専門職としての役割と責任を理解する 4 チーム内の専門性を理解する 5 多職種連携における協働を促進するコミュニケーションの重要性を理解する 					
教科書						
参考書						
成績評価方法	レポート				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	事例を通じて、他職種の役割について自ら考える 各職種の講義を確認することで、自分の考えを確認または修正する					
授業計画						講師名
第 1 回	医療社会学の概念					高田
第 2 回	健康や疾病をめぐる社会的要因と社会的施策					高田
第 3 回	自立支援と就労支援					高田
第 4 回	医療制度と社会制度					高田
第 5 回	マネジメント チーム医療で大切なこと 事例課題提示					増田
第 6 回	多職種連携① チーム医療における MSW、ケアマネージャーの役割					高田
第 7 回	多職種連携②-1 チーム医療における PT の役割					古谷
第 8 回	多職種連携②-2 チーム医療における PT の役割					古谷
第 9 回	多職種連携③-1 チーム医療における OT の役割					山根
第 10 回	多職種連携③-2 チーム医療における OT の役割					山根
第 11 回	多職種連携④-1 チーム医療における ST の役割					岩淵
第 12 回	多職種連携④-2 チーム医療における ST の役割					岩淵
第 13 回	多職種連携⑤-1 チーム医療における Ns の役割					増田
第 14 回	多職種連携⑤-3 チーム医療における Ns の役割					増田
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	地域リハビリテーション		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越 由季子					
授業概要	運動器の生理学、解剖学を理解する					
到達目標	1. 筋生理学を理解する 2. 感覚について理解する 3. 運動器について理解する					
教科書	クエスチョンバンク 共通問題					
参考書	配布資料 病気が見える 7 脳・神経【メディックメディア】 プロメテウス 解剖学アトラス 運動器系 【医学書院】 基礎運動学 【医歯薬出版】 解剖学 第3版 【医学書院】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回	【筋生理学 骨格筋】 筋原線維 骨格筋の特徴 運動単位					村越
第 2 回	【筋生理学 骨格筋】 筋収縮の生理 筋紡錘 ゴルジ腱器官 伸張反射					村越
第 3 回	【感覚】 皮膚の構造 感覚受容器 視覚器 視覚路					村越
第 4 回	【感覚】 聴覚器					村越
第 5 回	【運動機能学 骨】 骨 関節 上肢 下肢					村越
第 6 回	【運動機能学 骨】 骨 関節 上肢 下肢					村越
第 7 回	【運動機能学 神経支配】 上肢・二重神経支配					村越
第 8 回	【運動機能学 筋】 上肢					村越
第 9 回	【運動機能学 神経支配】 下肢・二重神経支配					村越
第 10 回	【運動機能学 筋】 下肢					村越
第 11 回	【運動機能学 筋】 頭部 頸部 体幹					村越
第 12 回	【運動機能学 運動学】 正常歩行					村越
第 13 回	【運動機能学 運動学】 バイオメカニクス					村越
第 14 回	【運動機能学 運動学】 姿勢 運動学習					村越
第 15 回	まとめ					村越
備考						

科目名	作業療法概論 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	基礎作業療法学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越由季子、高橋知之、山根剛、神保匡良、村仲隼一郎、林研二郎					
授業概要	作業療法の概略、歴史を知り、作業療法士としての資質と適性を身につける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法について説明できる。 ・ 作業療法の実践の過程について説明できる。 ・ 作業療法士の資質と適性を説明できる。 					
教科書	15 レクチャーシリーズ 作業療法テキスト「作業療法概論」【中山書店】					
参考書	授業の中で適宜配布する					
成績評価方法	定期試験		レポート		計	
	70 点		30 点		100 点	
カリキュラムの中での位置づけ	職業理解を深める					
授業計画						講師名
第 1 回	作業療法士の働く場について説明できる。					高橋
第 2 回	作業療法の手順について説明できる。					高橋
第 3 回	作業療法の目標について説明できる。					山根
第 4 回	作業療法士の役割について説明できる。					山根
第 5 回	作業療法士の責任について説明できる。					村越
第 6 回	作業療法士の仕事の魅力、やりがいについて説明できる。					村越
第 7 回	作業療法の実際					村仲
第 8 回	作業療法の実際					村仲
第 9 回	作業療法の実際					神保匡
第 10 回	作業療法の実際					神保匡
第 11 回	作業療法の実際					村越
第 12 回	作業療法の実際 ※1~12 回は専任教員の実践体験を聞き、上記内容について学ぶ。					村越
第 13 回	作業機能障害の視点で自分の生活を考える					山根
第 14 回	作業機能障害の視点で自分の生活を考える					神保匡

第 15 回	作業療法士に求められているもの：生活機能向上マネジメント	山根
--------	------------------------------	----

授業計画		講師名
第 16 回	作業療法士に求められているもの：生活機能向上マネジメント	村越
第 17 回	作業療法の歴史①：パラダイムシフトについて	山根
第 18 回	作業療法の歴史②：各パラダイムについて (前パラダイム・作業パラダイム・機械論的パラダイム・現代のパラダイム)	神保匡
第 19 回	作業療法の歴史③：作業療法のアイデンティティ形成について	村越
第 20 回	作業療法の歴史④：プレゼンテーション	神保匡
第 21 回	作業療法の定義	村仲
第 22 回	作業療法の定義	村仲
第 23 回	まとめ	村仲
第 24 回	作業療法士に求められる適正・倫理 P94	山根
第 25 回	作業療法と ICF	村越
第 26 回	作業療法と ICF	神保匡
第 27 回	作業療法と ICF	神保匡
第 28 回	領域別作業療法：身体障害	林
第 29 回	領域別作業療法：身体障害	林
第 30 回	後期まとめ	
備考	<p>前期は第 1～12 回までになり、レポート課題が 6 回×5 点=30 点分となります。 後期は第 13～29 回までとなり、筆記試験が 70 点分あります。 通年の教科の為、レポート・筆記の合計が 100 点となり、そのうちの 6 割以上取得するとで単位履修となります。</p>	

科目名	作業療法概論Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越由季子、山根 剛					
授業概要	植物生理学の基礎を踏まえ、臨床医学（内科学）との連続性を理解					
到達目標	循環器・呼吸器・消化器の復習と理解 ・上記3領域の内科学の理解					
教科書	① 配布資料：PTOT 国家試験必修ポイント 基礎医学/臨床医学 【医歯薬出版】 病気が見える vol 1, 2, 4 【メディックメディア】					
参考書						
成績評価方法	期末試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	【予習】該当領域の教科書「病気が見える」を読んてくる 【復習】要点の理解, ポイントの整理,					
授業計画						講師名
第1回	国試対策オリエンテーション 動脈、静脈、リンパ循環					村越
第2回	動脈、静脈、リンパ循環					村越
第3回	心臓					村越
第4回	心臓：刺激伝導系、血圧調整					村越
第5回	心疾患、心電図					村越
第6回	心疾患、心電図					村越
第7回	呼吸器の構造					山根
第8回	呼吸中枢、酸塩基平衡					山根
第9回	呼吸器内科：閉塞性・拘束性肺疾患他					山根
第10回	呼吸器内科：閉塞性・拘束性肺疾患他					山根
第11回	口腔～大腸解剖、消化酵素					山根
第12回	口腔～大腸解剖、消化酵素					山根
第13回	胃潰瘍 他					山根
第14回	循環、呼吸、消化器復習 課題					山根
第15回	まとめ					山根
備考						

科目名	基礎作業学講義		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保匡良、山根剛					
授業概要	作業療法士として求められる「作業」の理解を人間作業モデルを通して理解する					
到達目標	1. 作業の大切さについて説明できる 2. 人間作業モデルの概要を説明できる 3. 「個人的原因帰属」「興味」「価値」について説明できる 4. 「習慣化」「役割」について説明できる 5. 以上の内容についてレポートにまとめることができる					
教科書	キールホフナーの人間作業モデル					
参考書						
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書の講義該当箇所を熟読し、予習復習すること。					
授業計画						講師名
第 1 回	人間作業モデル「概論」					神保匡
第 2 回	人間作業モデル「価値」					神保匡
第 3 回	人間作業モデル「興味」					神保匡
第 4 回	人間作業モデル「個人的原因帰属」					神保匡
第 5 回	人間作業モデル「習慣化」					神保匡
第 6 回	人間作業モデル「役割」					神保匡
第 7 回	作業の治療的応用のための基礎理論 学習理論					山根
第 8 回	作業の治療的応用のための基礎理論 行動変容理論					山根
第 9 回	作業の治療的応用のための基礎理論 エンパワメント					山根
第 10 回	作業の治療的応用のための基礎理論 環境への働きかけ					山根
第 11 回	作業を実践するための分析法 身体機能分析					山根
第 12 回	作業を実践するための分析法 精神機能分析					山根
第 13 回	作業を実践するための分析法 発達学的分析					山根
第 14 回	作業を実践するための分析法 環境への働きかけ					山根
第 15 回	まとめ					山根
備考						

科目名	基礎作業学演習 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	基礎作業療法学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	作業活動に必要な道具・材料の知識・技術を習得し、作業分析を行う					
到達目標	各作業活動の特徴を理解する。作業分析の方法を理解し実施できる					
教科書	書籍名【出版社】 作業活動実習マニュアル					
参考書	書籍名【出版社】 適時プリントを配布					
成績評価方法	小テスト	レポート			計	
	40 点	60 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	授業内容をシラバスにて確認し、教科書を確認すること 配布された資料・講義内容を整理し、課題レポート作成すること					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション・次回の内容確認					高橋
第 2 回	作業活動で用いる道具（切る道具）操作体験					高橋
第 3 回	切る道具の特性の比較					高橋
第 4 回	切る道具 まとめ（用語の紹介・確認）					高橋
第 5 回	切る作業活動で用いる材料の特徴					高橋
第 6 回	切る材料（用語の紹介・確認）					高橋
第 7 回	作業活動で用いる道具（叩く・固定する道具）操作体験					高橋
第 8 回	叩く・固定する道具まとめ（用語の紹介・確認）					高橋
第 9 回	叩く・固定する材料の特徴（用語の紹介・確認）					高橋
第 10 回	作業活動で用いる道具・材料（貼る・接着する）の操作体験					高橋
第 11 回	貼る・接着する道具・材料 特性の比較確認					高橋
第 12 回	作業活動で用いる道具（塗る道具）操作体験					高橋
第 13 回	塗る道具 まとめ（用語の紹介・確認）					高橋
第 14 回	作業活動で用いる塗る材料の特徴					高橋
第 15 回	まとめ					高橋
備考	第 16～30 回は後期に実施 作業療法場面で活用する活動を演習する予定					

科目名	基礎作業学演習Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	・ 治療技術としての生活を含めた作業活動の理論、効果を学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な作業種目の、用具、実施方法、治療的応用について説明できる。 ・ 日常生活における作業を説明できる。 ・ 基礎作業学における基本的な治療理論について説明できる。 ・ 臨床における治療的応用が説明できる。 					
教科書	標準作業療法学 基礎作業学					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	シラバスにある関連ページを予習して講義に臨むこと。 関連ページを復習すること					
授業計画						講師名
第 1 回	作業と運動学					山根
第 2 回	作業と運動学 事例検討					山根
第 3 回	作業と神経生理学					山根
第 4 回	作業と神経生理学 事例検討					山根
第 5 回	作業と行動学習					山根
第 6 回	作業と行動学習 事例検討					山根
第 7 回	作業と心理学					山根
第 8 回	作業と心理学 事例検討					山根
第 9 回	発達と作業					山根
第 10 回	発達と作業 事例検討					山根
第 11 回	高齢期と作業					山根
第 12 回	高齢期と作業 事例検討					山根
第 13 回	青年期と作業					山根
第 14 回	青年期と作業 事例検討					山根
第 15 回	まとめ					山根
備考						

科目名	作業科学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲隼一郎					
授業概要	理論の枠組みを通して作業療法の思考過程を学習する					
到達目標	臨床的推論（クリニカルリーズニング） ICF の枠組みを通して作業療法の思考過程を理解できる 人間作業モデル（MOHO）を通して作業療法の思考過程を理解できる					
教科書	② 作業療法理論の教科書、作業で語る事例報告、人間作業モデル（第5版）、					
参考書	介護保険サービスとリハビリテーション、ICF を取り入れた介護過程の展開					
成績評価方法	レポート				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	【予習】 該当領域の教科書を読んでくる。特に事例 【復習】 要点の理解、ポイントの整理、					
授業計画						講師名
第1回	作業療法リーズニング（科学的、物語的、实际的、倫理的、相互交流）					村仲
第2回	作業療法リーズニング（事例演習）					村仲
第3回	作業療法リーズニング（事例演習）					村仲
第4回	臨床の情報を如何に整理するか（ボトムアップとトップダウン）					村仲
第5回	臨床の情報を如何に整理するか（事例演習）					村仲
第6回	ICF を用いたリーズニング（目標指向アプローチ）					村仲
第7回	ICF を用いた事例検討（身障）					村仲
第8回	ICF を用いた事例検討（身障）					村仲
第9回	MOHO を用いたリーズニング					村仲
第10回	MOHO を用いた事例検討					村仲
第11回	MOHO を用いた事例検討					村仲
第12回	MOHO を用いた事例検討					村仲
第13回	MOHO を用いた事例検討					村仲
第14回	MOHO を用いた事例検討					村仲
第15回	MOHO を用いた事例検討					村仲
備考						

科目名	職業管理学		対象学科		作業療法学	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業療法管理学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲隼一郎、神保匡良、村越由季子					
授業概要	作業療法士に必要な基本的なマネジメントについて学ぶ					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業に焦点を当てたマネジメントを理解する ・ セルフマネジメント, チームマネジメントを踏まえ, 新人としての行動規範を理解する ・ 社会保障制度を踏まえ地域包括ケアシステムにおけるマネジメントを理解する 					
教科書	作業で結ぶマネジメント 医学書院					
参考資料						
成績評価方法	レポート	定期試験			計	
	30 点	70 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	倫理綱領に関しては非常に重要であるため、全文を暗記・復唱できるようにする。					
授業計画						講師名
第 1 回	作業に焦点を当てたマネジメント 講義					村越
第 2 回	作業に焦点を当てたマネジメント 演習					村越
第 3 回	セルフマネジメント 講義					神保(匡)
第 4 回	セルフマネジメント 演習					神保(匡)
第 5 回	セルフマネジメント 演習					神保(匡)
第 6 回	チームマネジメント 講義					村仲
第 7 回	チームマネジメント 演習					村仲
第 8 回	チームマネジメント 演習					村仲
第 9 回	管理運営 講義					村越
第 10 回	管理運営 講義					村越
第 11 回	管理運営 演習					村越
第 12 回	社会保障制度					村仲
第 13 回	地域包括ケアシステムにおけるマネジメント 講義					村仲
第 14 回	地域包括ケアシステムにおけるマネジメント 演習					村仲
第 15 回	まとめ					村仲
備考						

科目名	職業倫理学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業療法管理学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 隼一郎					
授業概要	作業療法士に必要な基本的な職業倫理を学ぶ					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場だけでなく、身近に生じる倫理的問題を深く洞察できる力を獲得する。 ・倫理問題に対し様々な立場にたったものごとの解釈、予測、選択する力を獲得する。 					
教科書	・吉川ひろみ（著）：保健・医療職のための生命倫理ワークブック。三輪書店					
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・日本作業療法士協会 倫理綱領 作業療法士の職業倫理指針 参照URL：https://www.jaot.or.jp/files/page/kyoukainituite/rinrhisin.pdf ・日本作業療法士協会 作業療法士の倫理に係る事例集 参照URL：https://www.jaot.or.jp/files/page/kyoukainituite/rinrijirei.pdf 					
成績評価方法	レポート	定期試験			計	
	40 点	60 点		点	100 点	
予習・復習のポイント	倫理綱領に関しては非常に重要であるため、全文を暗記・復唱できるようにする。					
授業計画						講師名
第 1 回	職業倫理学に関するオリエンテーション 倫理綱領の概要説明					村仲
第 2 回	一般社団法人日本作業療法士協会・倫理綱領の内容理解（1）					村仲
第 3 回	一般社団法人日本作業療法士協会・倫理綱領の内容理解（2）					村仲
第 4 回	グループワーク・ディスカッション&まとめ					村仲
第 5 回	グループワーク・プレゼンテーション					村仲
第 6 回	グループワーク・プレゼンテーション <u>レポート1提出</u>					村仲
第 7 回	一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の職業倫理指針の内容理解（1）					村仲
第 8 回	一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の職業倫理指針の内容理解（2）					村仲
第 9 回	一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の職業倫理指針の内容理解（3）					村仲
第 10 回	グループワーク・ディスカッション&まとめ					村仲
第 11 回	グループワーク・プレゼンテーション					村仲
第 12 回	グループワーク・プレゼンテーション <u>レポート2提出</u>					村仲
第 13 回	一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の倫理に係る事例集の内容理解（1）					村仲
第 14 回	一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の倫理に係る事例集の内容理解（2）					村仲
第 15 回	まとめ					村仲
備考						

科目名	身体障害評価法講義(画像評価)		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業療法評価学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越由季子、山根剛、神保匡良、村仲隼一郎					
授業概要	身体障害領域に対する評価法の原理・方法を学習する					
到達目標	1. 身体障害の作業療法の評価について説明できる 2. 中枢神経障害の評価を説明・実施できる 3. 脳神経検査を説明・実施できる 4. 嚥下障害・気道吸引について説明できる					
教科書	作業療法評価学(標準作業療法学)【医学書院】					
参考書	身体障害作業療法学(標準作業療法)【医学書院】 病気が見える7 脳・神経【メディックメディア】 ベッドサイドの神経の見方【南山堂】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点				100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回	【評価総論】評価法講義で学ぶことを説明できる。評価の目的と意義を説明できる					村越
第 2 回	【評価総論】評価の手順、手段、留意点、評価項目を説明できる					村越
第 3 回	【評価総論】評価のまとめ、治療計画立案を説明・実施できる。評価を記録でき、報告できる ／効果判定について説明できる					村越
第 4 回	【反射】反射検査とその異常について説明できる					山根
第 5 回	【反射】反射検査を実施できる					山根
第 6 回	【筋緊張】筋 tone の異常を説明できる。筋 tone の評価を説明できる					山根
第 7 回	【脳神経】脳神経の検査を説明できる					山根
第 8 回	【脳神経】脳神経の検査を実施できる					山根
第 9 回	画像診断学					村仲
第 10 回	画像診断学					村仲
第 11 回	【中枢神経障害の見方】中枢神経障害の運動麻痺について説明できる					村越
第 12 回	【中枢神経障害の見方】中枢神経障害の運動麻痺の評価を説明できる					村越
第 13 回	【失調の見方】失調症・協調性障害について説明できる 失調症・協調性障害の検査が実施できる					神保匡
第 14 回	【失調の見方】失調症・協調性障害の検査が実施できる					神保匡
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	身体障害評価法演習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	演習	単位	2 単位
	作業療法評価学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲隼一郎、山根剛、神保 匡良、村越由希子					
授業概要	身体障害領域に対する作業療法評価法の原理・方法を学習する					
到達目標	身体障害分野の作業療法の各検査・測定を説明でき、実施できる。					
教科書	作業療法評価学（標準作業療法） 【医学書院】（後期に購入） PTOT のための測定評価 1 ROM 【三輪書店】 PTOT のための測定評価 2 形態測定・感覚検査・反射検査【三輪書店】 PTOT のための測定評価 3 MMT（上肢）【三輪書店】 PTOT のための測定評価 4 MMT（下肢体幹）【三輪書店】 PTOT のための測定評価 7 片麻痺機能検査・協調性検査【三輪書店】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 運動器系第 2 版 【医学書院】					
成績評価方法	実技試験	中間試験	定期試験	計		
	25×4 100 点	100 点	100 点	300 点		
予習・復習のポイント	事前に DVD を見て予習してから授業をうけること。授業後は繰り返し練習を行うこと					
授業計画						講師名
第 1 回	【バイタル】 バイタルサイン・意識障害・リスク管理について説明できる					村仲
第 2 回	【バイタルサイン】 バイタルサインの検査測定を実施できる（脈拍・血圧・呼吸数）					村仲
第 3 回	【関節可動域測定法】 関節可動域測定法を説明できる。関節可動域測定法を実施できる ○肘関節：屈曲・伸展、○手関節：背屈・掌屈・尺屈・橈屈					村越
第 4 回	【関節可動域測定法】 関節可動域測定法を実施できる ○肩甲帯：屈曲・伸展・挙上・下制 ○肩関節：屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展					村越
第 5 回	【関節可動域測定法】 関節可動域測定法を実施できる ○前腕：回内・回外 ○母指：橈側外転・掌側外転・MP 屈曲・MP 伸展・IP 屈曲・IP 伸展・ ○手指：MCP 屈曲・MCP 伸展・PIP 屈曲・DIP 屈曲・外転・内転					村越
第 6 回	【関節可動域測定法】 関節可動域測定法を実施できる ○股関節：屈曲・SLR での屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋					村越
第 7 回	【関節可動域測定法】 関節可動域測定法を実施できる ○膝関節：屈曲 ○足関節：背屈・底屈 ○足部：外がえし・内がえし・内転・外転					村越
第 8 回	【関節可動域測定法】 関節可動域測定法を実施できる ○頸部：屈曲・伸展・側屈・回旋 ○体幹：屈曲・伸展・側屈・回旋					村越
第 9 回	【身体測定】 身体測定の概論と主要な検査が実施できる					村越
第 10 回	形成的評価 関節可動域測定法&身体測定					村仲
第 11 回	【感覚検査】 感覚検査について説明できる					山根
第 12 回	【感覚検査】 感覚検査（表在覚）について説明でき、実施できる					山根
第 13 回	【感覚検査】 感覚検査（深部覚）について説明でき、実施できる					山根
第 14 回	形成的評価 感覚検査					村仲
第 15 回	前半のまとめ①					村仲

授業計画		講師名
第 16 回	前半のまとめ②	村仲
第 17 回	【中枢神経障害の運動機能評価】 Br-stage 上田式を理解・実施できる	神保(匡)
第 18 回	【中枢神経障害の運動機能評価】 Br-stage 上田式を実施できる	神保(匡)
第 19 回	【中枢神経障害の運動機能評価】 Fugl-Meyer Assessment S T E F が理解・実施できる	神保(匡)
第 20 回	【上肢機能検査】 上肢機能検査について説明できる (Motor Activity Log) (麻痺側上肢機能評価 : WMFT) を実施できる	神保(匡)
第 21 回	【立ち直り・バランス検査】 立ち直り・バランス検査について説明でき、実施できる	神保(匡)
第 22 回	BRS 形成的評価 1 限	神保(匡)
第 23 回	【筋力測定】 筋力測定について説明できる	村仲
第 24 回	【筋力測定】 MMT (上肢) を実施できる.	村仲
第 25 回	【筋力測定】 MMT (上肢) を実施できる	村仲
第 26 回	【筋力測定】 MMT (下肢) を実施できる	村仲
第 27 回	【筋力測定】 MMT (下肢) を実施できる	村仲
第 28 回	【筋力測定】 MMT (体幹) を実施できる	村仲
第 29 回	MMT 形成的評価 4 限	村仲
第 30 回	まとめ	村仲
備考	身体障害評価法演習の授業及び形成的評価においては、身だしなみマニュアルを参照し、 相応しい身なりで参加してください。	

科目名	精神障害評価法講義		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業療法評価学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	精神障害分野の評価、精神障害分野のOTの成り立ちを学習する					
到達目標	精神障害分野の作業療法における評価を説明することができる 精神障害分野の作業療法の成り立ちを説明できる					
教科書	A 精神障害と作業療法【三輪書店】 B 精神機能作業療法学【医学書院】					
参考書	作業療法評価学【医学書院】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	授業計画に従って、テキストの関連個所を事前に熟読すること。 事業内容に従って、テキストの関連個所を講義後に熟読すること。					
授業計画						講師名
第 1 回	精神の病と精神領域におけるリハの考え方を説明できる①ATx. 1-34					高橋
第 2 回	精神の病と精神領域におけるリハの考え方を説明できる②。 ATx. 1-34					高橋
第 3 回	精神科OTの成り立ちと課題について説明できる。 ATx. 35-53					高橋
第 4 回	精神科OTの実践される場について説明できる。 ATx. 216-261					高橋
第 5 回	精神障害分野OTの手順について説明できる ATx. 156-165					高橋
第 6 回	信頼関係の重要性とその形成について説明できる。					高橋
第 7 回	精神科作業療法における観察について説明できる。					高橋
第 8 回	プロセスレコード作成法とその目的について説明できる。					高橋
第 9 回	精神障害OTにおける評価項目と情報収集について説明できる。					高橋
第 10 回	面接の構造、構成的面接と非構成的面接について説明できる。					高橋
第 11 回	作業を用いた面接について説明できる。					高橋
第 12 回	精神保健分野での検査について説明できる。 精神障害者と生活障害について説明できる。					高橋
第 13 回	集団、場、場所と集団参加技能について説明できる。					高橋
第 14 回	事後評価、記録と報告について説明できる。 ATx. P209-210 説明と同意・チーム医療について説明できる。					高橋
第 15 回	まとめ					高橋
備考						

科目名	精神障害評価法演習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	作業療法評価学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	精神障害領域に対する作業療法評価法の原理・方法を学習し演習を行う					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己理解することができる。 ・ 対象者を観察し、それを記録することができる。 ・ 対象者と面接し、それを記録することができる。 ・ 得られた情報を整理することができる。 ・ 構成的な検査を実施し、解釈することができる。 ・ チーム内で良好なコミュニケーションが発揮できる。 ・ 評価計画をプランニングできる。 					
教科書	精神機能作業療法学【医学書院】 精神障害と作業療法【三輪書店】					
参考書	作業療法評価学【医学書院】					
成績評価方法	レポート	実技試験			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	授業計画に従って、テキストの関連箇所を熟読すること。					
授業計画						講師名
第 1 回	コースオリエンテーション 自己理解の重要性を説明できる					高橋
第 2 回	エゴグラムと解釈を説明し実施できる					高橋
第 3 回	思い込み、バイアスについて説明できる。					高橋
第 4 回	価値観について説明できる。					高橋
第 5 回	信頼関係を構築できる。 共感的態度を示すことができる。					高橋
第 6 回	共感的理解を実施することができる。					高橋
第 7 回	非関与観察と記録を実施することができる。					高橋
第 8 回	関与観察を実施することができる。 プロセスレコードを作成することができる。					高橋
第 9 回	情報を整理することができる。					高橋
第 10 回	面接のオリエンテーションができる。 適切に質問することができる。					高橋
第 11 回	傾聴することができる。					高橋
第 12 回	構成的面接演習（認知症検査を事例に）					高橋
第 13 回	非構成的面接演習					高橋
第 14 回	集団の評価演習					高橋
第 15 回	ペーパークライアントにて評価計画の立案が出来る レポート課題					高橋
備考	レポートの提出期日を厳守すること。					

科目名	日常生活活動評価法演習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業療法評価学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保 匡良					
授業概要	日常生活活動の各評価法や疾患ごとの詳細な A D L の特徴と援助を学ぶ					
到達目標	各評価方法の特徴を知り，対象者に合わせた評価法の選択，解釈ができる。					
教科書	脳卒中の機能評価 SIAS と FIM 基礎編 COPM・AMPS スターティングガイド 人間作業モデル理論と応用 OSA-Ⅱ、VQ、ACIS 各マニュアル					
参考書	配布プリント					
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	100 点	点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。 復習：教科書の演習問題を解く。					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション FIM①食事・整容・清拭評価項目・評価基準を知る					神保匡良
第 2 回	FIM②更衣・排泄・移乗・移動・コミュニケーション評価項目・評価基準を知る					神保匡良
第 3 回	COPM①COPM の概要について理解する					神保匡良
第 4 回	COPM②COPM の概要を知る，お互いに体験する。					神保匡良
第 5 回	クライアントが持つナラティブの意味を理解することができる①					神保匡良
第 6 回	クライアントが持つナラティブの意味を理解することができる②					神保匡良
第 7 回	AMPS①運動技能項目の評価基準を知る。					神保匡良
第 8 回	AMPS②プロセス技能項目の評価基準を知る。					神保匡良
第 9 回	人間作業モデルの評価が理解・実施できる (OSA-Ⅱ)					神保匡良
第 10 回	人間作業モデルの評価が理解・実施できる (OSA-Ⅱ)					神保匡良
第 11 回	人間作業モデルの評価が理解・実施できる (MOHOST)					神保匡良
第 12 回	人間作業モデルの評価が理解・実施できる (VQ)					神保匡良
第 13 回	人間作業モデルによる評価の意味が理解できる①					神保匡良
第 14 回	人間作業モデルによる評価の意味が理解できる②					神保匡良
第 15 回	まとめ					神保匡良
備考						

科目名	身体障害治療学 I (吸引)		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛、林 研二郎					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害分野の基本的な治療方法を学ぶ。 ・身体障害分野の疾患別、障害別の治療を学ぶ。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な治療を説明でき、実施できる ・障害像に合わせた治療介入を説明でき、実施できる 					
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学【医学書院】 エガース・片麻痺の作業療法【協同医書】					
参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 【医歯薬出版】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書の範囲を予習しておいてください。 ・授業後に教科書の範囲を復習しておいてください。 					
授業計画						講師名
第 1 回	脳血管障害（片麻痺）について説明できる					山根
第 2 回	脳血管障害（片麻痺）の障害像を説明できる					山根
第 3 回	麻痺の回復に合わせた治療を説明できる					山根
第 4 回	麻痺の回復に合わせた治療を説明できる					山根
第 5 回	筋 tone の異常への治療介入を説明できる					山根
第 6 回	骨折への作業療法の介入について説明できる					山根
第 7 回	骨折への作業療法の介入について実施できる					山根
第 8 回	関節可動域改善へのアプローチについて説明できる					林
第 9 回	関節可動域改善へのアプローチについて実施できる					林
第 10 回	筋力増強法について説明できる					林
第 11 回	筋力増強法について実施できる					林
第 12 回	末梢神経損傷への作業療法介入について説明できる					山根
第 13 回	末梢神経損傷への作業療法介入について説明できる					山根
第 14 回	知覚再教育を説明できる					山根
第 15 回	まとめ					山根
備考						

科目名	身体障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	治療モデルを学習し、モデルを利用した対象者の評価・治療を学習する					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害像に合わせた治療的介入を説明でき、実施できる。 ・ 治療モデルに沿って、対象者の評価、治療の流れを説明し、実施できる 					
教科書	身体機能作業療法学【医学書院】 人間作業モデルその理論と応用【協同医書出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点				100 点	
予習・復習のポイント	教科書の該当箇所を予習する 授業で学んだキーワードを元に学習をすすめる					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション 脳卒中片麻痺の運動障害の治療					山根
第 2 回	脳卒中片麻痺の運動障害の治療					山根
第 3 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練の考え方					山根
第 4 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 回復段階に合わせた治療					山根
第 5 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討					山根
第 6 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討					山根
第 7 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討					山根
第 8 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討					山根
第 9 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 関節可動域訓練					山根
第 10 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 関節可動域訓練					山根
第 11 回	作業療法理論に関する理解・歴史					山根
第 12 回	事例検討人間作業モデル OPHI-II を用いた評価					山根
第 13 回	事例検討人間作業モデルを用いた事例検討 1					山根
第 14 回	事例検討人間作業モデルを用いた事例検討 2					山根
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	身体障害治療学Ⅲ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 隼一郎					
授業概要	身体障害治療学Ⅰ及びⅡで学んだ治療法を基に、関節リウマチ、脊髄損傷、末梢神経障害、切断等の身体障害領域の各疾患に対する治療・支援・介入に関する講義内容					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節リウマチ、脊髄損傷、末梢神経障害、切断の障害像が理解できる ・ 上記疾患の作業療法の治療・支援・介入が理解できる ・ 各疾患に対する、自助具や義肢装具の適応と使用方法を理解できる 					
教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学第2版【医学書院】					
参考書	身体障害治療学Ⅰ及びⅡで学んだ治療法を基に、関節リウマチ、脊髄損傷、末梢神経障害、切断等の身体障害領域の各疾患に対する治療・支援・介入に関する講義内容					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点		点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第1回	整形外科	関節リウマチ				村仲
第2回	作業療法治療学	関節リウマチの作業療法				村仲
第3回	整形外科	脊髄損傷				村仲
第4回	作業療法治療学	脊髄損傷の作業療法				村仲
第5回	作業療法治療学	脊髄損傷の作業療法				村仲
第6回	作業療法治療学	脊髄損傷の作業療法				村仲
第7回	整形外科	骨折				村仲
第8回	作業療法治療学	骨折の作業療法				村仲
第9回	整形外科	末梢神経損傷				村仲
第10回	作業療法治療学	末梢神経損傷の作業療法				村仲
第11回	作業療法治療学	末梢神経損傷の作業療法				村仲
第12回	整形外科・作業療法	切断と作業療法				村仲
第13回	義肢装具学	義肢学				村仲
第14回	義肢装具学	装具学				村仲
第15回	まとめ					村仲
備考						

科目名	精神障害治療学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	精神障害分野で扱う代表的な疾患の障害像と作業療法について学習する					
到達目標	精神障害分野における代表的対象疾患について ①障害像を説明できる ②作業療法を説明できる					
教科書	精神疾患の理解と作業療法【中央法規】 精神障害と作業療法【三輪書店】					
参考書	作業療法評価学【医学書院】					
成績評価方法					計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	授業計画に従って、テキストの関連個所を事前に熟読すること。 事業内容に従って、テキストの関連個所を講義後に熟読すること。					
授業計画						講師名
第 1 回	作業療法の実践 統合失調症 回復過程 発症から寛解、再燃について説明できる。					高橋
第 2 回	作業療法の実践 統合失調症 回復過程 発症から寛解、再燃について説明できる。					高橋
第 3 回	作業療法の実践 統合失調症 セラピストの態度、関わり方の留意点について説明できる。					高橋
第 4 回	作業療法の実践 統合失調症 セラピストの態度、関わり方の留意点について説明できる。					高橋
第 5 回	作業療法の実践 統合失調症 特徴・病形分類に合わせた対応について説明できる					高橋
第 6 回	作業療法の実践 統合失調症 回復過程に合わせた対応について説明できる					高橋
第 7 回	作業療法の実践 気分障害 うつ病の障害像 躁状態の障害像について説明できる。					高橋
第 8 回	作業療法の実践 気分障害 気分障害の作業療法について説明できる。					高橋
第 9 回	作業療法の実践 神経症性障害の作業療法について説明できる。					高橋
第 10 回	作業療法の実践 人格障害の作業療法について説明できる					高橋
第 11 回	作業療法の実践 接食障害の作業療法について説明できる					高橋
第 12 回	作業療法の実践 依存症の作業療法について説明できる					高橋
第 13 回	作業療法の実践 てんかん、心理的発達の障害の作業療法について説明できる。					高橋
第 14 回	作業療法の実践 老年期精神障害（認知症）と作業療法について説明できる。					高橋
第 15 回	まとめ					高橋
備考						

科目名	精神障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	テキスト、ペーパーペイシエントを用いて精神障害分野の評価、問題点抽出、目標設定、治療プログラム立案、再評価、終了の一連の流れを学習する					
到達目標	精神障害分野の作業療法の実践について説明することができる ペーパーペイシエントを用いて精神障害分野の作業療法のプログラム立案を実施できる。					
教科書	精神障害と作業療法【三輪書店】					
参考書	精神機能作業療法学【医学書院】精神疾患の理解と精神科作業療法【中央法規】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	授業計画に従って、テキストの関連箇所を熟読すること。 国家試験問題に目を通すこと。					
授業計画						講師名
第 1 週	治療・援助構造と対象者について説明できる。 作業・作業活動の用い方について説明できる。 Tx. 86-116					高橋
第 2 週	自己の治療的利用と集団・場の用い方について説明できる。 Tx. 117-128					高橋
第 3 週	時間、対象関係、システムについて説明できる。Tx. 130-144					高橋
第 4 週	心理教育と S S T について説明できる。Tx. 346-351					高橋
第 5 週	地域移行・生活支援と就労支援について説明できる。 Tx. 228-249 257-261					高橋
第 6 週	病期に応じた作業療法 Tx. 220-227					高橋
第 7 週	ケース 1 慢性期、施設内維持を目指すケース ペーパーペイシエントを用いて、評価計画、評価のまとめ、問題点抽出、焦点化、目標設定、治療プログラム立案を実施できる。					高橋
第 8 週						
第 9 週						
第 10 週						
第 11 週	ケース 2 社会復帰を目指すケース ペーパーペイシエントを用いて、評価計画、評価のまとめ、問題点抽出、焦点化、目標設定、治療プログラム立案を実施できる。					高橋
第 12 週						
第 13 週						
第 14 週						
第 15 週	まとめ					高橋
備考						

科目名	精神障害治療学Ⅲ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	精神障害分野の作業療法を学習する					
到達目標	精神障害分野の代表的疾患を説明することができる 精神障害分野の作業療法を説明できる 作業療法で用いられる心理検査について説明できる。 作業療法で必要な臨床心理学の知識を説明できる。					
教科書	PTOT 国家試験必修ポイント:臨床医学 OT 治療学Ⅱ					
参考書	精神機能作業療法学 精神障害と作業療法 専門基礎分野 精神医学					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	国家試験過去問題集の該当箇所を予習復習すること					
授業計画						講師名
第 1 回	統合失調症 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学 P 274-287					OT 教員
第 2 回	統合失調症 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学 P 274-287					OT 教員
第 3 回	統合失調症 OT のかわり方について説明できる。 障害別 OT 治療学 P 360-397					OT 教員
第 4 回	統合失調症 回復段階に合わせた OT について説明できる。 障害別 OT 治療学 P 360-397					OT 教員
第 5 回	気分障害 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学 P 288-298					OT 教員
第 6 回	気分障害 作業療法について説明できる。 障害別 OT 治療学 P 398-427					OT 教員
第 7 回	神経症性障害 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学 P 329-337					高橋
第 8 回	神経症性障害 作業療法について説明できる。 障害別 OT 治療学 P 428-457					高橋
第 9 回	依存症 (アルコール、薬物など) 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 P 312-314 障害別 OT 治療学 P 563-580					高橋
第 10 回	人格障害・摂食障害 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 P 338-341 障害別 OT 治療学 P 458-488					高橋
第 11 回	認知症 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 P 298-311 障害別 OT 治療学 P 535-562					高橋
第 12 回	てんかん 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 P 320-324 障害別 OT 治療学 P 524-534					高橋
第 13 回	精神障害に対する作業療法介入 障害別 OT 治療学 P 340-357 薬物療法 臨床医学 P 315-319					OT 教員
第 14 回	臨床心理学 臨床医学 P 234-269					OT 教員
第 15 回	まとめ					高橋
備考						

科目名	発達障害治療学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 八重樫 貴之					
授業概要	肢体不自由児（脳性まひなど）の運動障害や発達障害（自閉スペクトラム症や ADHD など）評価のから、治療プログラム立案までのプロセスについて学習することを目的とする					
到達目標	肢体不自由児の運動障害の評価結果から治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べるができる。発達障害の評価結果から治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べるができる。					
教科書	発達障害(作業療法学全書)【協同医書出版社】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	・教科書をよく読んできてください					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション 発達障害と作業療法士の役割					八重樫
第 2 回	発達障害領域における作業療法の基礎知識① (原始反射、運動発達、粗大運動発達・姿勢①)					八重樫
第 3 回	発達障害領域における作業療法の基礎知識② (原始反射、運動発達、粗大運動発達・姿勢②)					八重樫
第 4 回	発達障害領域における作業療法の基礎知識③ (上肢機能と視機能の発達)					八重樫
第 5 回	発達障害領域における作業療法の基礎知識④ (認知、社会的機能の発達)					八重樫
第 6 回	発達障害領域における作業療法の基礎知識⑤ (ADL の発達①)					八重樫
第 7 回	発達障害領域における作業療法の基礎知識⑤ (ADL の発達②)					八重樫
第 8 回	発達障害領域における作業療法の基礎知識⑤ (遊びの発達)					八重樫
第 9 回	発達障害領域の対象疾患① (脳性麻痺)					八重樫
第 10 回	発達障害領域の対象疾患② (知的障害、ダウン症)					八重樫
第 11 回	発達障害領域の対象疾患③ (重症心身障害、神経筋疾患、骨疾患)					八重樫
第 12 回	発達障害領域の対象疾患③ (学習障害・注意欠陥多動性障害・ASD 等発達障害)					八重樫
第 13 回	事例検討 (重症心身障害、神経筋疾患、骨疾患)					八重樫
第 14 回	事例検討 (学習障害・注意欠陥多動性障害・ASD 等発達障害)					八重樫
第 15 回	まとめ					八重樫
備考						

科目名	発達障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保 匡良					
授業概要	発達障害児に対する作業療法の実際、疾患別のアプローチについて学ぶ。 また、発達障害作業評価学で学んだ知識を基に、対象児の発達像を把握し、発達促進的な援助・指導法を習得し、治療技術や治療の実際を理解する。					
到達目標	小児の正常発達を知る事で発達障害への理解を深める 主な発達検査の概要を理解する・様々な発達障害の特徴について理解する					
教科書	標準作業療法学 発達過程作業療法学 福田恵美子編 医学書院					
参考書	テキストは適宜紹介する					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	必要な資料を適宜配布するため、教科書と併せ資料を読み込み理解すること					
授業計画						講師名
第 1 回	小児の正常発達（反射・反応・姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 2 回	小児の正常発達（反射・反応・姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 3 回	小児の正常発達（反射・反応・姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 4 回	小児の正常発達（反射・反応・姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 5 回	遠城寺・デンバー					神保匡良
第 6 回	日本版ミラー					神保匡良
第 7 回	脳性麻痺（姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 8 回	脳性麻痺（姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 9 回	ダウン症（姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 10 回	重度心身障害（姿勢・コミュニケーション）					神保匡良
第 11 回	自閉症スペクトラム					神保匡良
第 12 回	ADHD、その他広汎性発達障害					神保匡良
第 13 回	精神遅滞					神保匡良
第 14 回	まとめ					神保匡良
第 15 回	授業の内容から					神保匡良
備考						

科目名	高齢期障害治療学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越 由季子、山根 剛					
授業概要	高齢者の現状を述べ、高齢期障がいの一般的特徴、生理機能の変化、高齢者に多い疾患を講義し、高齢期障がいに対する作業療法の役割、および治療を講義する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う心身の変化について説明できる ・高齢期の特徴について説明できる ・高齢期特有の障害像に対する作業療法の介入を説明できる 					
教科書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学第3版 【医学書院】 老人のリハビリテーション第8版 【医学書院】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	90 点	10 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	授業計画の各回に提示した内容に従って、事前に自ら下調べをし、授業で学習した内容についてまとめ、復習をすることで理解を深める。また、分からないことについても自ら積極的に調べるとともに、担当教員に質問する。					
授業計画						講師名
第1回	ケーススタディ① 評価計画					山根
第2回	ケーススタディ② 評価計画					山根
第3回	ケーススタディ③ 目標設定					山根
第4回	ケーススタディ④ プログラム設定					山根
第5回	ケーススタディ まとめ					山根
第6回	高齢社会とは何か 高齢期への適応・QOL・社会活動・家族関係・現代社会について [高齢期作業療法学 p8~11、p18~28]					村越
第7回	高齢期の一般的特徴 [高齢期作業療法学 p39~50]					村越
第8回	高齢期に多い疾患 [高齢期作業療法学 p51~63]					村越
第9回	高齢期の作業療法について 健康高齢者のケースを通して学ぶ [高齢期作業療法学 p33~38、p150~154]					村越
第10回	高齢期の作業療法の実践（生活期・終末期） 症例を通して学ぶ [高齢期作業療法学 p98~103]					村越
第11回	作業療法士が理解しておくべき人権と尊厳の説明・生活の見方 [高齢期作業療法学 p81~87]					村越
第12回	ロコモティブシンドロームについて [高齢期作業療法学 p47・老人のリハビリテーション p297~301] 廃用症候群・誤用症候群・過用症候群について [老人のリハビリテーション p357~367]					村越
第13回	高齢期の評価について [老人のリハビリテーション p238 配布資料] 腎・泌尿器系疾患のケースの作業療法について					村越
第14回	心臓疾患のケースの作業療法について					村越
第15回	まとめ					村越
備考	ケーススタディはレポートを毎回提出していただきます					

科目名	高次神経障害治療学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高次神経障害の病態像を学ぶ。 ・高次神経障害の評価法を学ぶ 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高次神経障害の病態像のイメージができる ・高次神経障害における基本的な病巣と病態の関係を把握し、評価あるいは治療の基本的な考え方に繋げることができる 					
教科書	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学（第2版）【医学書院】					
参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学（第3版）【医歯薬出版】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書の範囲を予習しておいてください。 ・授業後に教科書の範囲をを復習しておいてください。 					
授業計画						講師名
第1回	授業概要・概論 脳の機能解剖 高次脳機能障害を引き起こす疾患					山根
第2回	概論 高次脳機能障害の評価・治療の原則					山根
第3回	注意障害 注意障害の分類と評価・治療					山根
第4回	注意障害の検査実技 TMT かなひろい CAT					山根
第5回	半側空間無視の分類と評価・治療					山根
第6回	失認の分類と評価・治療					山根
第7回	失認・半側空間無視の検査実技 BIT 浜松式					山根
第8回	失行 行為障害の分類と評価・治療					山根
第9回	記憶障害の分類と評価・治療					山根
第10回	記憶障害の検査実技 三宅式 ベントン					山根
第11回	遂行機能障害・社会的行動障害の分類と評価・治療					山根
第12回	遂行機能障害の検査実技 BADS					山根
第13回	失語症・失読・失書の分類と評価・治療					山根
第14回	認知症の分類と評価・治療					山根
第15回	まとめ					山根
備考						

科目名	高次神経障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛 村仲 隼一郎					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高次神経障害の病態像を学ぶ。 ・高次神経障害の評価法を学ぶ 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高次神経障害の病態像のイメージができる ・高次神経障害における基本的な病巣と病態の関係を把握し、評価あるいは治療の基本的な考え方に繋げることができる 					
教科書						
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖【医学書院】 脳卒中ビジュアルテキスト第3版【医学書院】 PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方【医歯薬出版】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学Ⅱの内容を復習しておいてください。 ・神経内科学の内容を復習しておいてください。 					
授業計画						講師名
第1回	各疾患の画像診断 事例					山根
第2回	失語症 事例検討					山根
第3回	失行 事例検討					山根
第4回	失認 事例検討					山根
第5回	半側空間無視 事例検討					山根
第6回	記憶障 事例検討					山根
第7回	注意障害 事例検討					山根
第8回	遂行機能障害 事例検討					村仲
第9回	社会的行動障害 事例検討					村仲
第10回	認知症（脳血管生認知症）事例検討					村仲
第11回	認知症（アルツハイマー病）事例検討					村仲
第12回	脳血管障害（回復期）事例検討					村仲
第13回	頭部外傷（回復期）事例検討					村仲
第14回	頭部外傷（維持期～社会復帰支援）事例検討					村仲
第15回	まとめ					山根
備考						

科目名	義肢装具学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 井上 由貴					
授業概要	義足、義手、スプリント、装具に関する知識の習得、安静時スプリントの製作演習					
到達目標	疾患に対するスプリント・義手・義足・体幹装具などの役割を理解する。クライアントに適した補装具を選択、チェックアウトできる。OTとしてクライアントに必要な上肢スプリントを製作することができる。					
教科書	作業療法学全書 作業療法技術学 1 義肢装具学 【協同医書出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。 復習：教科書の演習問題を解く。					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション、義肢装具学概論 [義肢装具学 p1-11]					井上
第 2 回	歴史、切断の原因・部位、義手、義足 [義肢装具学 p13-25]					井上
第 3 回	義手の扱い方、弾性包帯の巻き方、構成要素、機能 [義肢装具学 p27-39]					井上
第 4 回	義手の装着前後の訓練 [義肢装具学 p40-45]					井上
第 5 回	チェックアウト、仮義手 [義肢装具学 p45-65]					井上
第 6 回	筋電義手、適応疾患例 [義肢装具学 p66-81(筋電義手)、p85-121(適応疾患例)]					井上
第 7 回	下肢・体幹・上肢装具 [義肢装具学 p123-151]					井上
第 8 回	適応、分類、目的、条件、OTの役割 [義肢装具学 p155-164]					井上
第 9 回	頸髄損傷、関節リウマチ、末梢神経損傷 [義肢装具学 p187-209]					井上
第 10 回	末梢神経損傷、手の外科・ハンドセラピー、脳血管障害 [義肢装具学 p209-230]					井上
第 11 回	製作の流れ、チェックアウト、基本項目 [義肢装具学 p165-185]					井上
第 12 回	メジャーリング					井上
第 13 回	安静時スプリント製作					井上
第 14 回	安静時スプリント製作					井上
第 15 回	まとめ					井上
備考						

科目名	日常生活活動学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保 匡良					
授業概要	ADL の概要を知り、評価の視点を持つ					
到達目標	【知識・技術】ADL のプロセス、ACIS の項目、基本動作のシーケンスが理解できる 【思考力・判断力】目標・評価・方法のつながりから「評価」の必要性について説明することができる 【学びに向かう力】知識をつながっていくことで学びの面白さを感じることができる					
教科書	作業療法全書第 11 巻 日常生活活動 / 新しい介護 学術図書メディカル					
参考書						
成績評価方法	定期試験	実技試験			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。 復習：教科書の演習問題を解く。					
授業計画						講師名
第 1 回	ADL の概念と分類 (ADL IADL BADL) ADL に対する作業療法の役割					神保匡良
第 2 回	基本的 ADL : 食事 整容					神保匡良
第 3 回	基本的 ADL : 入浴 排泄 更衣					神保匡良
第 4 回	基本的 ADL : 起居動作・コミュニケーション					神保匡良
第 5 回	手段的 ADL : 健康管理 家庭生活 社会活動					神保匡良
第 6 回	基本的 ADL : 移動 歩行					神保匡良
第 7 回	基本的 ADL : 車いす操作 移乗動作 実技試験通知オリエンテーション					神保匡良
第 8 回	基本動作 トランスファー					神保匡良
第 9 回	形成的評価 トランスファー実技試験					神保匡良
第 10 回	実技試験 : トランスファー介助 (3,4 時間目)					神保匡良
第 11 回	日常生活活動の評価 作業療法の視点について					神保匡良
第 12 回	日常生活活動の評価 評価方法について (FIM BI)					神保匡良
第 13 回	日常生活活動制限に対する作業療法援助法①					神保匡良
第 14 回	日常生活活動制限に対する作業療法援助法②					神保匡良
第 15 回	まとめ					神保匡良
備考						

科目名	日常生活活動学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	作業治療学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保 匡良					
授業概要	疾患の特徴や、理論による作業療法援助を学習する					
到達目標	「病理」⇒「病態」⇒「支援方法」をつなげて理解することができる					
教科書	作業療法全書第 11 巻 日常生活活動					
参考書	配布プリント					
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	100 点	点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。 復習：教科書の演習問題を解く。					
授業計画						講師名
第 1 回	脳血管障害：解剖/生理学と CVA の病理をつなげて理解できる					神保匡良
第 2 回	脳血管障害：解剖/生理学と CVA の病理をつなげて理解できる					神保匡良
第 3 回	脳血管障害：片麻痺体験・片麻痺の起居動作（ポジショニング）が理解できる					神保匡良
第 4 回	脳血管障害：片麻痺患者の更衣動作、排泄動作が理解できる					神保匡良
第 5 回	脳血管障害：片麻痺患者の食事動作が理解できる					神保匡良
第 6 回	脳血管障害：片麻痺患者の入浴動作・IADL の特徴が理解できる					神保匡良
第 7 回	脳血管障害：ケーススタディー					神保匡良
第 8 回	脳血管障害：ケーススタディー					神保匡良
第 9 回	脊髄損傷：Zancolii の分類を理解する					神保匡良
第 10 回	脊髄損傷者の ADL（損傷部位と残存機能）					神保匡良
第 11 回	脊髄損傷者の ADL 残存機能レベルと到達目標					神保匡良
第 12 回	脊髄損傷者の ADL 住環境について					神保匡良
第 13 回	脊髄損傷：損傷レベル別介入が理解できる 起居・移乗					神保匡良
第 14 回	脊髄損傷：損傷レベル別介入が理解できる BADL					神保匡良
第 15 回	前半のまとめ					神保匡良

授業計画		講師名
第 16 回	パーキンソン病の障害像を説明できる	神保匡良
第 17 回	パーキンソン病の治療介入を説明できる	神保匡良
第 18 回	神経難病（ALS）の障害像とOTの介入について説明できる	神保匡良
第 19 回	神経難病（ALS）の治療介入を説明できる	神保匡良
第 20 回	神経難病（筋ジス）の障害像と治療介入を説明できる	神保匡良
第 21 回	神経難病（脊髄小脳変性症）の障害像と治療介入を説明できる	神保匡良
第 22 回	リウマチの障害像、治療介入を説明できる	神保匡良
第 23 回	心疾患の障害像とADLについて理解する	神保匡良
第 24 回	心疾患の障害像とADLについて理解する	神保匡良
第 25 回	呼吸器疾患の障害像とADLについて理解する	神保匡良
第 26 回	呼吸器疾患の障害像とADLについて理解する	神保匡良
第 27 回	脳血管障害：解剖/生理学とCVAの病理をつなげて理解できる	神保匡良
第 28 回	脳血管障害：解剖/生理学とCVAの病理をつなげて理解できる	神保匡良
第 29 回	脳血管障害：片麻痺体験・片麻痺の起居動作（ポジショニング）が理解できる	神保匡良
第 30 回	脳血管障害：片麻痺患者の更衣動作、排泄動作が理解できる	神保匡良
備考		

科目名	作業療法研究法		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲隼一郎					
授業概要	作業療法における研究の位置づけを理解し、卒業研究実施のための基礎固めをする					
到達目標	作業療法士にとっての研究の必要性を理解する。 文献レビューの必要性と方法が理解できる 量的研究と質的研究の違いが理解できる 事例研究の必要性を理解し、その作法が分かる 研究疑問を遂行することが出来る 統計の基本的知識を理解する					
教科書	作業療法研究法 第2版					
参考書	作業で語る事例報告 作業療法レジュメの書き方考え方【医学書院】					
成績評価方法	レポート1	レポート2	発表		計	
	33 点	33 点	33 点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書の該当箇所を予習する 授業で提示されたキーワードを復習する					
授業計画						講師名
第1回	作業療法士は何のために研究をするのか理解する					村仲
第2回	作業療法士は何のために研究をするのか理解する					村仲
第3回	事例研究概論と演習					村仲
第4回	事例研究を査読者の視点から批判的吟味を行う					村仲
第5回	統計の知識を持つ 平均、分散と標準偏差、普遍分散、偏差値、母集団と標本、区間推定と信頼区間、について説明できる					村仲
第6回	統計の知識を持つ 帰無仮説と対立仮説、有意水準（1%と5%）と棄却域について説明できる 各種検定について説明できる					村仲
第7回	統計の知識を持つ エクセルを用いて検定を実施できる					村仲
第8回	統計の知識を持つ エクセルを用いて検定を実施できる					村仲
第9回	<u>①作業療法実践の中で湧き上がった疑問を、研究疑問、仮説にするという研究の流れを理解する</u> <u>②自分の研究疑問が、研究に値するかを判断するためには文献検索が必要であることが理解できる</u>					村仲
第10回	文献レビューの目的について理解する					村仲
第11回	文献レビュー演習 文献検索方法について					村仲
第12回	情報科学実習室でCinii, Google scholar, 医中誌の使い方を演習する					村仲
第13回	研究計画の作り方 講義・演習					村仲
第14回						村仲
第15回	研究計画発表					村仲
備考						

科目名	卒業研究 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	5 単位
	作業治療学		コマ数	60 コマ	時間数	150 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 作業療法学科教員					
授業概要	作業療法分野の研究実践					
到達目標	1. 作業療法分野の文献を検索できる 2. 作業療法の文献を整理・分析できる 3. プレゼンテーション資料の作成ができ、発表できる。 4. 研究報告書を作成できる。					
教科書	配布資料					
参考書						
成績評価方法	レポート	プレゼンテーション			計	
	70 点	30 点	点		100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
	1. 卒業研究オリエンテーション 卒業研究ガイドラインの説明					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
	2. 研究実施 各担当教員とともに研究を随時実施する（概ね 8 週間） テーマの絞り込み フレーミング 研究計画書作成 文献レビュー 発表資料作成 発表原稿作成					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
	3. 研究発表 スライドを用いて、研究の口述発表（プレゼンテーション）を行う。					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
	4. 卒業研究論文作成 各担当教員とともに研究論文作成を随時行う（概ね 4 週間）					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
備考	各々切を厳守すること					

科目名	卒業研究Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 作業療法学科教員					
授業概要	作業療法分野の研究の理解と実践					
到達目標	1. 作業療法の研究手順を説明できる。 2. 作業療法分野の文献検索を実施できる。 3. 作業療法の文献を整理・分析を説明できる。 4. プレゼンテーション技術について説明できる					
教科書	配布資料					
参考書	文献レビューのきほん—看護研究・看護実践の質を高める 作業療法研究法 第2版 (標準作業療法学 専門分野)					
成績評価方法	レポート				計	
	100 点	点		点	100 点	
予習・復習のポイント	各回の配布資料を読んでくること					
授業計画						講師名
第1回	【卒業研究概論】卒業研究オリエンテーション					専任
第2回	【卒業研究概論】文献研究に関する基礎知識 概要					専任
第3回	【卒業研究概論】文献レビューの流れ					専任
第4回	【卒業研究概論】文献レビューの実際					専任
第5回	【課題設定】研究テーマの設定について					専任
第6回	【課題設定】研究テーマの設定について					専任
第7回	【課題設定】研究疑問を持つ					専任
第8回	【課題設定】研究疑問を持つ					専任
第9回	【課題設定】研究疑問を絞り込む方法について					専任
第10回	【課題設定】研究疑問を絞り込む					専任
第11回	【課題設定】研究疑問を絞り込む					専任
第12回	【課題設定】良い研究疑問を設定するためには					専任
第13回	【課題設定】良い研究疑問を設定できているか確認する					専任
第14回	【課題設定】研究テーマを決める					専任
第15回	【課題設定】研究テーマを決める					専任
備考	各々切の期日を必ず守ること					

科目名	生活環境学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保 匡良					
授業概要	機能代償の手段としての環境整備の考え方やリハビリテーション機器の種類を知り、適用技術を学ぶ。					
到達目標	機能代償の手段としての環境整備の考え方を理解し、リハビリテーション機器の種類を知り、適用技術を習得する。適切な自助具が作成できる。					
教科書	作業療法学全書 作業療法技術学 10 福祉用具の考え方・住環境整備 【協同医書】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	80 点	20 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。 復習：教科書の演習問題を解く。					
授業計画						講師名
第 1 回	福祉用具総論① グループによる調べ学習 「福祉用具と作業療法士の役割」「福祉用具の適用論」					神保匡良
第 2 回	福祉用具総論②					神保匡良
第 3 回	福祉用具の適用「臥位/起居・移乗」					神保匡良
第 4 回	福祉用具の適用「食事・整容」					神保匡良
第 5 回	福祉用具の適用「入浴・排泄」					神保匡良
第 6 回	福祉用具の適用「移動（杖）」					神保匡良
第 7 回	人間作業モデルを理解する①					神保匡良
第 8 回	人間作業モデルを理解する②					神保匡良
第 9 回	疾患別福祉用具適用例：リウマチ					神保匡良
第 10 回	疾患別福祉用具適用例：リウマチ					神保匡良
第 11 回	人—環境—作業モデルから環境を理解する					神保匡良
第 12 回	カナダ作業遂行モデルから環境を理解する					神保匡良
第 13 回	疾患別福祉用具適用例：脊髄損傷					神保匡良
第 14 回	疾患別福祉用具適用例：脊髄損傷					神保匡良
第 15 回	まとめ					神保匡良
備考						

科目名	生活環境学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	住環境整備について作業療法士の関わり方を学習する。					
到達目標	環境について学び、住宅改修等の環境整備プラン作成能力を養う。 住宅改造における作業療法士の役割を説明できる。 住宅改造を助言、指導を行うときの留意点が挙げられる。 住宅改造に必要な図面を理解し、説明できる。簡単な図面が描ける。					
教科書	作業療法学全書第3版 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備【協同医書出版】					
参考書	書籍名【出版社】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書の該当箇所を予習する 授業で学んだキーワードを元に学習をすすめる					
授業計画						講師名
第1回	オリエンテーション 作業療法と環境整備・住宅の機能 福祉用具の使い方・住環境整備 P155～156					山根
第2回	図面の書き方（教科書の図面・自宅の間取り） 福祉用具の使い方・住環境整備 P156～163					山根
第3回	住宅改修の概念 平面図、立体図の書き方 福祉用具の使い方・住環境整備 P164～174					山根
第4回	ADL 室のトイレ、浴室、キッチン、和室、図面作成					山根
第5回	住宅改修の検討事項・相談記録作成 福祉用具の使い方・住環境整備 P174～178					山根
第6回	住宅改修の検討事項・相談記録作成 福祉用具の使い方・住環境整備 P174～178					山根
第7回	障害別住宅改修・環境制御装置 福祉用具の使い方・住環境整備 P178～184					山根
第8回	グループワーク 模擬対象者の自宅での生活検討					山根
第9回	自宅平面図と改修予定の図面作成（自宅学習）					山根
第10回	自宅平面図と改修予定の図面作成（自宅学習）					山根
第11回	グループワーク 模擬対象者改修計画まとめ					山根
第12回	グループワーク 模擬対象者改修計画まとめ					山根
第13回	グループ 各グループ 30 分の発表（PowerPoint・実演）					山根
第14回	グループ 各グループ 30 分の発表（PowerPoint・実演）					山根
第15回	まとめ					山根
備考	準備するもの：2リングファイル メジャー（金属製のもの） 定規 30 cm 方眼紙（A4 で冊子のもの）					

科目名	地域作業療法学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越 由季子 山根 剛					
授業概要	地域リハビリテーションとは何かを理解し、地域作業療法による支援を実施するために必要な各施設の仕組み・法制度を理解する					
到達目標	(模擬事例に対し、地域作業療法プログラムを立案することができる。) 介護保険制度(地域包括ケアシステム)、介護予防事業、障害者総合支援制度を理解し、該当する国家試験問題が解けるようになる。					
教科書	書籍名【出版社】 適時プリントを配布					
参考書	書籍名【出版社】 地域作業療法学 医学書院 地域作業療法学 医歯薬出版					
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	80 点	20 点	点		点	
授業計画						講師名
第 1 回	社会保障制度について		P 39～58		村越	
第 2 回	社会保障制度の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成					
第 3 回	障害者総合支援法		P 58～65		村越	
第 4 回	総合支援法の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成					
第 5 回	介護保険制度について		P 39～58		村越	
第 6 回	介護保険制度の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成					
第 7 回	地域リハビリテーションとは		P 2～36		村越	
第 8 回	地域作業療法とは		P 2～36		村越	
第 9 回	ふれあいグループの施設・地域の文脈について調べる・発表準備					
第 10 回	ふれあいグループの施設・地域の文脈について調べる・発表準備					
第 11 回	身体障害領域の地域リハビリテーション					
第 12 回	高齢期領域の地域リハビリテーション					
第 13 回	住環境について					
第 14 回	ふれあいグループの施設について発表					
第 15 回	テスト					
備考	レポートは社会保障制度の国試、総合支援法の国試、介護保険法の国試、グループの発表資料各 5 点 20 点分となります。 各国家試験が調べ終わり、時間が余った場合はバリアフリーデザインの住環境整備、訪問作業療法等地域リハビリテーションに関係する問題も調べておくとよいです(試験範囲)					

科目名	地域作業療法学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越由季子					
授業概要	植物生理学の基礎を踏まえ、臨床医学（内科学）との連続性を理解					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泌尿器、内分泌、代謝の復習と理解 ・ 上記 3 領域の内科学の理解 ・ 病理学の復習と理解 					
教科書	①Question Bank 共通領域 病気が見える vol 3, 6, 8 【メディックメディア】					
参考書						
成績評価方法	期末試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	【予習】 該当領域の教科書「病気が見える」を読んてくる 【復習】 要点の理解, ポイントの整理,					
授業計画						講師名
第 1 回	腎臓の解剖、泌尿器の構造、①P78-82、207-216					村越
第 2 回	排尿の生理①P78-82、207-216					村越
第 3 回	基礎代謝、エネルギー代謝、体温と調節①149-154					村越
第 4 回	糖代謝、骨代謝、カルシウム代謝①149-154					村越
第 5 回	内分泌総論①217-229					村越
第 6 回	内分泌総論①217-229					村越
第 7 回	糖尿病 腎不全 内分泌疾患①500-526					村越
第 8 回	糖尿病 腎不全 内分泌疾患①500-526					村越
第 9 回	免疫機構、免疫組織と免疫グロブリン①159-169					村越
第 10 回	免疫機構、免疫組織と免疫グロブリン①159-169					村越
第 11 回	浮腫、萎縮、褥瘡、炎症①283-298					村越
第 12 回	感染症、①283-298					村越
第 13 回	腫瘍					村越
第 14 回	復習課題					村越
第 15 回	まとめ					村越
備考						

科目名	見学実習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	1 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	45 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	作業療法の現場で実際に活躍されている作業療法士の方々に接し、作業療法の実際場面を見学し、作業療法の役割を知る					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 職業人としての、責任のある行動が身についている。(時間を守る、守秘義務を守るなど) ② 作業療法の実際を見学し、作業療法業務とその役割を説明できる。 ③ 病院・施設の仕組みを説明できる。 ④ リハビリテーションチームとスタッフについて、その役割・機能を説明できる。 					
教科書	なし					
参考書	作業療法概論 (医学書院)					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
	1. 実習前セミナー (オリエンテーション) <ul style="list-style-type: none"> ① 作業療法士としての基本的態度について。 ② 作業療法士の業務について。 ③ 見学と記録 (ポートフォリオ) について。 ④ 見学実習の目標設定。 ⑤ 実習場面シミュレーション 					
	2. 現地実習 (6 日間)					
	3. 事後セミナー (実習報告会) <ul style="list-style-type: none"> ①ポートフォリオによく実習報告 ②グループにより実習体験発表 					
備考	実習期間の5分の1を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。 成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。					

科目名	地域リハビリテーション実習		対象学科		作業療法学科	
			対象学年		2年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	1
	臨床実習		日数	6日	時間数	45
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	<p>超高齢化社会に向けて今後、通所及び訪問によるリハビリテーション支援の知識・体験が重要となる。</p> <p>通所または訪問施設の機能を理解し、臨床実習指導者の下で学生が学んだ評価を実施し、患者（利用者）を理解するための知識・技術と臨床実習生としての態度を身に付ける</p> <p>障害を有する患者（利用者）を理解し、個々のニーズを導き出すための作業療法評価を理解し、可能であれば臨床実習指導者の下、検査等を実施する</p>					
到達目標	通所または訪問施設の機能を理解し、臨床実習指導者の下で学生が学んだ評価を実施し、患者（利用者）を理解するための知識・技術と臨床実習性としての態度を身に付ける					
教科書	書籍名【出版社】					
参考書	書籍名【出版社】					
成績評価方法					計	
	点	点	点	100点		
予習・復習のポイント	<p>実習要綱を熟読すること</p> <p>指導者より頂いた指導・助言を振り返り、デイリーノートに記載する</p> <p>必要であれば、後日指導者・教員に質問し理解を深める</p>					
授業計画						講師名
第1日目	施設オリエンテーション 病棟見学	各部門・施設の見学の順番、回数は指定はしない 到達目標に必要な見学・体験を実施				
第2日目	OT見学 PT見学					
第3日目	ST見学 治療・評価見学					
第4日目	治療・評価見学 模倣					
第5日目	治療・評価見学 模倣 一部検査の実施					
第6日目	治療・評価見学 模倣 一部検査の実施					
セミナー	グループディスカッション 発表					
備考						

科目名	作業療法評価法技術演習(教養試験)		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	臨床実習		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 隼一郎 神保匡良 村越由季子 山根剛 高橋知之					
授業概要	評価実習に参加するにふさわしい、作業療法士としての態度と技能を養うこと。評価項目の列挙やその実施は、グループ単位でおこなう。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各事例に対して、適切な評価の列挙・その理由・実施が滞りなく実施できること。 作業療法の説明等を含む円滑なコミュニケーションを遂行できること。 					
教科書	・ 今までの評価技術に関する教科書全て					
参考資料	・ 上記参照					
成績評価方法	OSCE		PBT		計	
	100		100 点		200 点	
予習・復習のポイント	各事例に応じた、評価方法が円滑に遂行できるように、練習を重ねる					
授業計画						講師名
第 1 回	事例（事例 1）の提示 事例に相応しい評価項目を列挙する →グループ学習を主体とする。事例の基本情報を各班ごとに提示しその情報から考えられる、必要な評価項目の列挙を行ってもらう。あがった評価項目に対するリーズニングを作成する					村仲
	第 2 回 第 3 回	上記事例に対する 形成的評価の準備（練習）。				
第 4 回 第 5 回	形成的評価					村仲 村仲
第 6 回	事例（事例 2）の提示 事例に相応しい評価項目を列挙する →グループ学習を主体とする。事例の基本情報を各班ごとに提示しその情報から考えられる、必要な評価項目の列挙を行ってもらう。あがった評価項目に対するリーズニングを作成する					村仲
	第 7 回 第 8 回	上記事例に対する 形成的評価の準備（練習）。				
第 9 回 第 10 回	形成的評価					村仲 村仲
第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回	残り 4 コマは、上記 2 事例から明らかになった評価法技術の演習の課題点の修正や OSCE に向けた個人別の練習を実施する。					村仲 村仲 村仲 村仲
第 15 回	まとめ					村仲

科目名	作業療法治療技術演習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	臨床実習		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 隼一郎 神保匡良 村越由季子 山根剛 高橋知之					
授業概要	総合臨床実習Ⅱの参加にふさわしい、作業療法士としての態度と技能を養うこと。評価項目の列挙や実施を通し、作業療法の実践の素地を養う					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各事例に対して、適切な評価の列挙・その理由・実施が滞りなく実施できること。 作業療法の説明等を含む円滑なコミュニケーションを遂行できること。 					
教科書	・ 今までの評価・治療技術に関する教科書全て					
参考資料	・ 上記参照					
成績評価方法	OSCE				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	各事例に応じた、評価・治療技術が滞りなく実施できるような練習を行なうこと					
授業計画						講師名
第 1 回	事例（事例 1）の提示 事例に相応しい評価項目を列挙する →グループ学習を主体とする。事例の基本情報を各班ごとに提示しその情報から考えられる、必要な評価項目の列挙を行ってもらう。あがった評価項目に対するリーズニングを作成する					村仲
第 2 回	上記事例に対する 形成的評価の準備（練習）。					村仲
第 3 回						村仲
第 4 回	形成的評価					村仲
第 5 回						村仲
第 6 回	事例（事例 2）の提示 事例に相応しい評価項目を列挙する →グループ学習を主体とする。事例の基本情報を各班ごとに提示しその情報から考えられる、必要な評価項目の列挙を行ってもらう。あがった評価項目に対するリーズニングを作成する					村仲
第 7 回	上記事例に対する 形成的評価の準備（練習）。					村仲
第 8 回						村仲
第 9 回	形成的評価					村仲
第 10 回						村仲
第 11 回	残り 4 コマは、上記 2 事例から明らかになった評価法技術の演習の課題点の修正や OSCE に向けた個人別の練習を実施する。					村仲
第 12 回						村仲
第 13 回						村仲
第 14 回						村仲
第 15 回	まとめ					村仲

科目名	評価実習 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	3 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	135 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	・ 指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案までの一連の作業療法評価について、見学・模倣・実践の臨床参加型実習（クラークシップ）を行う。					
到達目標	<p>①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。</p> <p>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。</p> <p>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。</p> <p>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。</p> <p>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。</p> <p>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。</p> <p>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。</p> <p>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。</p>					
教科書	なし					
参考書	各教科書					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						
	<p>1. プレ実習</p> <p>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。</p> <p>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。</p> <p>知識に関しては、確認試験を行う。</p> <p>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。</p> <p>実習目標を定める</p>					学内
	<p>2. 現地実習（18 日間）</p> <p>【1 週目】</p> <p>カルテ・処方箋を見る。</p> <p>検査測定・治療場面等を見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）。</p> <p>検査測定、情報収集項目を列挙→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【2 週目】</p> <p>実習指導者から情報収集と可能な範囲での検査測定などの実施。</p> <p>得られた情報から、問題点の列挙と焦点化、予後予測と治療目標を立案。</p> <p>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【3～4 週目】</p> <p>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える。</p> <p>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p>					病院 施設
	<p>3. 事後セミナー（実習報告会）</p> <p>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。</p> <p>内容：実習で経験したことを報告する。</p>					学内
備考	<p>実習期間の 5 分の 1 を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。</p> <p>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。</p>					

科目名	評価実習Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	3 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	135 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案までの一連の作業療法評価について、見学・模倣・実践の臨床参加型実習（クラークシップ）を行う。					
到達目標	<p>①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。</p> <p>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。</p> <p>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。</p> <p>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。</p> <p>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。</p> <p>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。</p> <p>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。</p> <p>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。</p>					
教科書	なし					
参考書	各教科書					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点		点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						
	<p>1. プレ実習</p> <p>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。</p> <p>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。</p> <p>知識に関しては、確認試験を行う。</p> <p>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。</p> <p>実習目標を定める</p>					学内
	<p>2. 現地実習（18 日間）</p> <p>【1 週目】</p> <p>カルテ・処方箋を見る。</p> <p>検査測定・治療場面等を見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）。</p> <p>検査測定、情報収集項目を列挙→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【2 週目】</p> <p>実習指導者から情報収集と可能な範囲での検査測定などの実施。</p> <p>得られた情報から、問題点の列挙と焦点化、予後予測と治療目標を立案。</p> <p>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【3～4 週目】</p> <p>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える。</p> <p>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p>					病院 施設
	<p>3. 事後セミナー（実習報告会）</p> <p>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。</p> <p>内容：実習で経験したことを報告する。</p> <p>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。</p>					学内
備考	<p>実習期間の5分の1を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。</p> <p>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。</p>					

科目名	総合臨床実習 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	8 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	360 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案、作業療法実施とその振り返りまでの一連の作業療法過程について、見学・模倣・実践の 臨床参加型実習（クラークシップ） を行う。					
到達目標	<p>①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。</p> <p>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。</p> <p>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。</p> <p>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。</p> <p>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。</p> <p>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。</p> <p>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。</p> <p>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。</p>					
教科書	なし					
参考書	各教科書					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						
1. プレ実習	<p>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。</p> <p>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。</p> <p>知識に関しては、確認試験を行う。</p> <p>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。</p> <p>実習目標を定める</p>					学内
2. 現地実習（48 日間）	<p>【1 週目】</p> <p>カルテ・処方箋を見る。</p> <p>治療場面（評価含む）見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）</p> <p>検査測定、情報収集項目を列挙 指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【2 週目】</p> <p>項目を元に情報収集と一部検査の実施。得られた情報から、問題点の列挙と焦点化</p> <p>予後予測とゴールを含めた指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【3～4 週目】</p> <p>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える</p>					病院 施設

	<p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【5～7 週目】</p> <p>一部治療の実施。治療目標に沿った治療を立案・実施し、対象者の変化を捉える</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【8～10 週目】</p> <p>一部検査の実施、対象者の変化を捉え、治療の効果判定の思考過程を学ぶ。</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p>	
	<p>3. 事後セミナー（実習報告会）</p> <p>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。</p> <p>内容：実習で経験したことを報告する。</p> <p>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。</p>	<p>学内</p>
<p>備考</p>	<p>実習期間の5分の1を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。</p> <p>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。</p>	

科目名	総合臨床実習Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	8 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	360 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案、作業療法実施とその振り返りまでの一連の作業療法過程について、見学・模倣・実践の臨床参加型実習(クラクシップ)を行う。					
到達目標	①指導者の行う、作業療法の業務、患者(利用者)様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。 ②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。 ③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。 ④患者(対象者)に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。 ⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。 ⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。 ⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。 ⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。					
教科書	なし					
参考書	各教科書					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						
1. プレ実習 目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。 内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。 知識に関しては、確認試験を行う。 実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。 実習目標を定める					学内	
2. 現地実習(45日間 360時間) 【1週目】 カルテ・処方箋を見る。 治療場面(評価含む)見学。ADL 場面観察(フロアでの様子、更衣、食事、移動など) 検査測定、情報収集項目を列挙 指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。 【2週目】 項目を元に情報収集と一部検査の実施。得られた情報から、問題点の列挙と焦点化 予後予測とゴールを含めた指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。 【3~4週目】 一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える					病院 施設	

	<p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【5～7 週目】</p> <p>一部治療の実施。治療目標に沿った治療を立案・実施し、対象者の変化を捉える</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【8～10 週目】</p> <p>一部検査の実施、対象者の変化を捉え、治療の効果判定の思考過程を学ぶ。</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p>	
	<p>3. 事後セミナー（実習報告会）</p> <p>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。</p> <p>内容：実習で経験したことを報告する。</p> <p>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。</p>	<p>学内</p>
<p>備考</p>	<p>実習期間の5分の1を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。</p> <p>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。</p>	

